

「私のふるさと飯綱町～15歳の提言～」の実践にみる教師の カリキュラム・マネジメントにかかわるOJT研修

小山茂喜（信州大学 学術研究院総合人間科学系）

1. はじめに

平成15年(2003)に市町村の平成の大合併が進行する中、南信州の平谷村では中学生から参加する住民投票が行われ話題になったが、平成28年(2016)は第24回参議院議員通常選挙において「一八歳選挙権」が実施されるということで、この住民投票が再び話題になり、多くの学校で投票行動を促す啓蒙活動として模擬選挙・模擬議会・地域活性化案作成等、主権者教育のあり方を様々な視点から模索した実践が展開された。特に模擬選挙・模擬議会といった学習については、「一八歳選挙権」実施に向けて平成23年に出された「常時啓発事業のあり方等研究会」最終報告書（総務省）による「主権者教育」「政治的リテラシーの育成」などの政治的な教育の進め方として、模擬投票と論争問題を取り上げた学習が示されていることが影響していると考えられる。

この平谷村の住民投票の真の意義は、前年に行われた「子供議会」を踏まえて実施されているということである。平成14年(2002)12月4日付信濃毎日新聞は、「多くの議員は、『質問はレベルが高く、意外に村のことを考えていると思った』などと話し、全員協議会でも中学生の住民投票参加資格に反対はなかった」と報じている。村議会場で行われた「子供議会」を通して、子供たちの地域に対する「帰属意識」が醸成されていたことが、その後を追いかけた信濃毎日新聞にみることができる。平成27年(2015)6月18日付紙面で、住民投票当時同時高校1年生だった女性が当時は、「責任を持って村のことを考えた」、今は「若者が学べる機会を作る必要がある」と述べている記事を、平成28年(2016)年1月3日付紙面では、当時中学3年生だった男性の「村がなくなるという危機感」を持って、「自分なりに考えて反対票を投じ」、「これまで選挙一度も欠かしてない」と述べている記事を載せている。^{*)}

このことから、子供議会を体験したことで、自分たちの村のこと(実社会)を知らなければ話にもならないという危機感から地域に対しての「帰属意識」が醸成され、さらに、そのことが原動力となって、地域の実態を真剣に学び、単なる机上の希望の提案でなく、地に足の着いた提案で議論をしたことが、社会的に認められたという経験になり、自分たちが社会を支えていかなければならないという主権者としての意識が育っていることがうかがえる。

なお、『主権者教育の推進に関する検討チーム』中間まとめ（文部科学省:平成28（2016）年3月）では、主権者教育を「単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるにとどまらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせる」としているが、まさに平谷村の実践の反映と考えることができる。

同時に「中間まとめ」では、「主権者教育を進めるに当たっては、子供たちの発達段階に応じて、それぞれが構成員となる社会の範囲や関わり方も変容していくことから、学校、家庭、地域が互いに連携・協働し、社会全体で多様な取組を行うことの必要性とともに、取組を行うに当たっては、学校等のみならず、教育委員会等の地方公共団体の関係部署が、積極的な役割を果たすこと」とし、学校教育と地域との連携の重要性を説いている。

つまり、主権者として社会とかかわっていく姿勢を養うには、地域への帰属意識の醸成の学びの場と、その地域社会の構成員として前向きに議論する学び場の設定とが必要で、その学びの場の運営を支えるカリキュラムマネジメントが、教育実践に求められているといえる。

そこで本稿では、平成28年度に展開された飯綱町立飯綱中学校第3学年の総合的な学習²を例に、主権者教育にかかわるカリキュラムマネジメントについて考察したい。

2. 0JT型研修となった授業設計

(1) 外部機関(議会事務局)が授業設計に与えた方向性

長野県飯綱町は、全国平均より速いスピードでの人口減少、そして65歳以上の割合の増加、加えて若年女性割合の減少等が進展していることから、「生きがい」と「町への帰属意識」をキーワードに、高校生以上が委員となって平成27年に「飯綱町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を立案し、将来のまちづくりに向けて取り組んでいる。

しかし、この施策が教育現場に及んでいるかと問われると、ほとんど意識されていなかったというのが実際であった。少なくとも、平成27年度後半、当時の2学年を構成していた教員らが、次年度つまり3学年の総合的な学習についての指導計画を立案し始めた段階では、町の戦略とリンクした教育実践という発想はなかった。そもそも、「飯綱町まち・ひと・しごと創生総合戦略」自体を認識していない状況であった。

中学校学習指導要領では、「地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階や特性等を十分考慮して、適切な教育課程を編成するもの」としているが、指導する教師自身が地域の実態について十分に理解できていないのは決してめずらしいことではなく³、飯綱中学校においても、生徒の地域における生活実態については理解しているが、町の施策等につ

いては、ほとんど意識されていない状況であった。

当然、中学生にとっても「飯綱町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関わる機会は与えられておらず、戦略の内容が大人向けということもあり、本来町の未来を担う中学生にも、ほとんど意識されていない状況であった。

さて、指導する教員の総合的な学習の指導計画立案に当たっての意識は、1年生の「ふるさと飯綱町に学ぶ」で、町の「伝統文化」「食」「自然」「町の今」を学び、2年生の「これからの私～未来へのパスポートを持とう～」で、町内の事業所で職業体験をしたことを踏まえて、総合的な学習の成果と課題を踏まえて⁴、次年度の授業設計を開始した9月段階では、『3年生では「少子高齢化」という現代社会が抱えている課題と向き合い、ESDの観点も絡めて「模擬議会」ができないか』というものであった。

特に、授業設計の中心となる学年主任の伊藤秀雄教諭（数学担当）の思いは、地域に密着した学校なので、とにかく生徒たちが地域に入り込む学習活動を展開させ、キャリア教育の充実を図りたいというもので、学習の目標は、「日常生活をはじめ、普段からお世話になっている町の方々に、実際に地域に出て地域のために役立つ活動をして、貢献することを通して、地域に感謝の気持ちを表し、町の活性化に寄与していく。また、地域の方々に町への要望や地域の実態を把握することを通して、グループの提言活動につなげていく。」というものであった。授業計画を立案する要の教員が「社会」の教員ではないことから、「町の戦略」との連携や主権者教育という意識はなく、キャリア教育の観点から最近よく耳にする「模擬議会」の体験を組み込みたいというもので、この段階では、まさに、「常時啓発事業のあり方等研究会」最終報告書に示された活動そのもののようであり、模擬議会を体験させることが目的になりかねない意識レベルであった。⁵

ところが、模擬議会について町議会事務局に相談したことから、学習の方向性が大きく舵をきることになった。町議会事務局の提案は、模擬議会でなく、生徒が本当の議会に参加し直接町長に提言する「生徒参加の議会」で、行政当局等とも連携してこの授業実践は展開した方が、町にとっても生徒にとっても充実した学習になるのではというものであった。つまり、以前模擬議会を開催した経験から、単なる模擬議会では、生徒が行政に対して質問するレベルで終わってしまう可能性が高く、地域住民として地域とどのように向き合うか・活動するか観点あまり期待できないのではという提案で、その提案を勘案して学年会で検討した結果、以下のような主権者教育の方向性が強く打ち出された目標が設定された。

- ① 町の現状と課題を知り、持続可能な町づくりのために必要なことを、自己課題として設定することができる。
- ② 調査活動、体験的な学習、地域の方や友達とのかかわりを通して、自己課題を追究することができる。

- ③ 自分の追究を提言までにまとめ、模擬議会を通して発信することができる。
- ④ 町の現状や課題に関心をもち、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する自立した主権者になる意欲を持つことができる。

まさに、次期新学習指導要領で求められている「どのように学ばせるか」「どのような力を身に付けさせるか」という観点での「学びの道筋」を改めて意識付けられることになった。町議会事務局からの働きかけで、議会・行政・社会福祉協議会等の方々と授業計画を検討することになり、授業設計に「飯綱町まち・ひと・しごと創生総合戦略」との連動が組み込まれることになった。また、町議会議長からは、町長と真剣勝負で対話する場を設定することで、直接生徒が社会参画しているという意識を持たせたいので、名称も「模擬議会」ではなく「中学生議会」としてはという提案があり、主権者教育の視点が強力に入ってくることになった。この段階までは、学年主任がリードして次年度の学習計画を立案していたが、主権者教育の視点が色濃くなってきたことから、カリキュラムマネジメントにかかわる OJT 並びに学年経営の観点から、学年に配置されていた社会科担当の教員をコアに、授業展開を考えていくシフトに変更されていった。

授業展開を検討した結果、飯綱町のかかえる課題＝時事問題をテーマに総合的な学習を核に、社会などの教科とも連動させて探究し、自分たちが地域にどのように関わることで、地域の生活が充実するとはどういうことなのか、町に暮らす人々が「生きがい」を持って生活するとはどういうことなのかについて、具体的な提案を「中学生議会」で試みたらということになった。

このような学習は得てして、学習を展開していく過程で、状況に応じて地域の方々に協力を仰ぐという展開になりがちであるが、計画当初から地域の方々に参画していただくという地域開放型の授業設計を展開することで、生徒の追究活動で発生するであろう課題(問題)を、事前に把握することが可能になり、能動的な学習展開が可能となると考え、授業実践は各機関等と連携して展開していくことになった。

(2) 学習目標の設定

「何か町のために」という第2学年での総合的な学習の生徒たちの反省アンケート⁶にみられる生徒たちの「思い」を受け、学年会では「この生徒たちの願いを大切に、題材を展開していきたい」という視点から、町議会事務局等との議論の中で、「少子高齢化・福祉・小学校の合併・税金・飯綱町のスポーツ活動・飯綱町の農業、観光・18歳選挙権・飯綱町と他の地域とのつながり」について体験的に追究させる「地域貢献活動」を学習のひとつの柱にしようという案が浮上してきた。具体的には、これまでの総合的な学習の経験をもとに、生徒の関心にあわせて「農業体験・環境体験・福祉体験Ⅰ(社協管轄)

・福祉体験Ⅱ（社協管轄外）・老人との交流・保育園体験」⁷の6つの活動を設定し、体験活動を通して町の活性化に寄与させるというものであった。

そして、3年間を通して学んできた総合的な学習の達成感を得させる活動としては、教師の側で想定した「町がかかえている課題」⁸について、生徒の関心によって追究させ、改善策等を中学生議会で提案させるというものであった。

前述の通り、議会事務局と連携しながら学習計画を設計し、4月からの具体的な学習活動に向けて、町のそれぞれの部署等と打合せを行った。

これまで、授業を設計するという作業は学校内で行われており、地域に出かけていく校外活動や外部講師を招いての特別授業等については、日程や受入れ場所等は教員が直接外部交渉をして学校もしくは教員の都合で決定されていた。つまり、地域社会とのつながりを核とする学習であるが、地域と学校との連携という視点でみると、学校側からのベクトルが強く、地域はそれを受け入れてくれているという状況であった。

しかし、町の担当者と具体的な内容を確認する作業をする中で、これまでの手法では授業計画が作成できないということに教師が気づかされたのである。

学年会であらかじめ考えた「町がかかえている課題」について、町の担当者から「何を根拠に課題を設定しているのか」という確認に対して、教員側の説明はこれまでの生徒の学習成果や学校が地域から得ている情報を基にというものであった。行政としては「飯綱町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しているので、当然その内容に則したものと考えるの確認であったが、前述のように学年会としては理解していなかったため、まず総合戦略を確認して改めて課題を設定することとなった。同時に、生徒たちに戦略を理解してもらうことも必要であろうということになり、担当者からの特別講義を組み込んだ方がよいのではということになり、町からは、戦略立案のまとめ役である副町長が直接中学生に語るのがよいのではという提案がなされた。

また、学年会として、生徒の学習に対する意欲を高めるために、シンポジウムを開催したいと提案したところ、町や議会事務局からは、どのような基準と手続きでパネリストを選定するのかという質問が出された。学年会としては、前述のように担当教員の人間関係を中心に人選を考えているとの説明がなされたが、町や議会事務局からは、地域社会の中で様々考慮しなければならないこともあるので、中学生議会を想定していることから、慎重に人選をしないと、地域の協力が得られなくなる可能性もあるとアドバイスされた。

教師の側には、これまで地域と連動しながら学習を展開してきたという意識があり、これまで通りで問題となることはないという認識で学習計画を立案してきたが、中学生議会というように地域を巻き込んで展開する学習では、こまごまとした視点からの確認等が必要であるということ、教師が改めて気づかされた内容であった。つまり、学習指導要領でこれまでも「地域の実態」に応じということがくり返し示されているが、カリキュラム・マネジメントの視点から、どのように学校が地域とかわらなければならないかを学ぶ

良い研修の機会になったといえる。

町との話し合いを受けて、町から提案された課題を学年会で検討し、以下の5つの課題が作成された。

- ①活気ある飯綱町を目指し、多くの人に飯綱町を知ってもらい、みんなが飯綱町に訪れるようになるためにはどうしたらよいか。
- ②飯綱町のりんごや米など農作物をどのように売り出していけばよいか。
- ③住みやすい町づくりを目指し、高齢者が生きがいを持って、飯綱町で安心して生活できるためにはどうしたらよいか。
- ④若者が安心して働き、生活できる町づくりをするためにはどうしたらよいか。

この課題について、再度議論した結果、こぢんまりしていてもその地域に住む人々が「生きがい」や「地域に対する誇り」を持って生活できる町づくりという視点で追究させることが、仮想の町づくりの議論ではなく、生徒自らが関わる町づくりという切実感を醸し出せるのではということになり、以下のような課題に再度訂正された。

- ①住みやすい町づくりを目指し、高齢者が生きがいを持って、飯綱町で安心して生活できるためにはどうしたらよいか。
- ②活気ある飯綱町を目指し、多くの人に飯綱町を知ってもらい、みんなが飯綱町に訪れるようになるためにはどうしたらよいか。
- ③少子高齢化の中で持続可能な町づくりを目指し、若者や子育て世代が安心して働き、生活できる飯綱町にするためにはどうしたらよいか。
- ④飯綱町の環境や豊かな自然を守ることを目指し、飯綱町の自然や景観を生かした町づくりを進めるにはどうしたらよいか。
- ⑤飯綱町の認知度を高め、農業をブランド化することを目指し、飯綱町のりんごや米など農作物、特産物をどのように売り出し、アピールしていけばよいか。

学年会での再提案課題はどれも、生徒たちが自ら地域と関わりながら、提案していけるものにかなり改善されたといえる。しかし、漠然とした課題ではあるが、何か追究する内容が固定化されてしまいそうな感があり、生徒たちが追究する際の発想の幅が狭くなるのではということになり、追究の幅は広く、かつ、具体的な内容は生徒自らが決定できるようにして、能動的な学習が展開できるような課題にするにはどうしたらよいか議論し、以下の課題にたどり着いた。

- ①町民が生きがいを持って生活できる町に必要なものはなにか。町づくりのヒントを考えよう。
- ②飯綱町の強みは何か。飯綱町の強みにひかれて人々が訪れる町づくりのヒントを考えよう。
- ③未来に向けて「持続可能な町」とはどのような町だろう。すべての世代が安心して生活できる町づくりのヒントを考えよう。
- ④飯綱町原風景とは何だろう。飯綱町が持つ自然環境や社会環境を生かした町づくりのヒントを考えよう。
- ⑤飯綱町が持つ「歴史や産業」資源を活用した飯綱町そのもののブランディング戦略を考えよう。

(3) 学習展開案の作成

総合的な学習では、学習目標やテーマの設定が難しいとされていることから⁹⁾、課題が設定されたことで、3学年の「いいづなタイム（総合的な学習の時間）」において、「私のふるさと飯綱町～15歳の提言～」として、年間およそ30時間で展開する学習展開案が設定された。

段階	時	内 容
町 の 問 題 を	1	○「私のふるさと飯綱町～15歳の提言～」のオリエンテーション ・ 題材についての説明・題材の展開について
	2	・ ウェビングによる課題の掘り起こし ・ 学習を通しての「なりたい自分」の設定 ・ 学習はじめのアンケート実施
知 り 課 題 を 設 定 す る	3	○講演会「『中学生議会』を通して、何を学ぶか？」を実施 ・ 講師：信州大学教授 小山茂喜
	4	・ この題材を通して、「どんなことを学んだらよいか？」をしていただき、学習する価値を位置づけていただく。 ・ 追究のモデルの提示 ・ 町議会のしくみ（役割、仕組み、審議の仕方、議会への提言の仕方）について学習する。
一	5	○講演会「飯綱町の現状と課題」を実施 ・ 講師：飯綱町副町長 小澤勇人
	6	・ 飯綱町の現状と課題について説明していただき、その中で「飯綱町 まち・ひと・しごと創生総合全戦略」、「飯綱町人口ビジョン」を

学期 5 ～ 6 月		中心に町の施策について説明していただく。また、飯綱町として生徒に中学生議会で提言して欲しい。問題を提示していただく。 ・副町長として、飯綱中学校生に期待することをお話いただく。・
	7	○グループ課題の設定及び追究方法の決定 ・前時、提示していただいた問題をグループで分担し、学習課題を設定していく。 ・グループごとに追究計画を立てる。
追 究 7 月	8 ～ 13	○地域貢献活動 ・校外に出て地域貢献活動を行いながら、お世話になっている町内の方に感謝の気持ちを表す。また、町民等へインタビューし、町の現状を学習し、課題の探求を行う。 ・活動の内容・・・農業体験、環境体験、福祉体験（障害者福祉、独居老人、保育）
	14 ～ 15	○パネルディスカッション「これからの町づくりを考える」 ・パネラー 飯綱町副町長(行政) 飯綱町議会議長(議会) 社会福祉法人飯綱町社会福祉協議会事務局長(地域) 朝日新聞社長野総局長(有識者) 地域住民代表(地域) ・地方自治について見識を持った方々を外部講師に迎え、パネルディスカッションを行う。グループ課題解決のための参考になる話を聞き、飯綱町やさらには長野県を考えへ、中学生議会への質問づくりの参考にしていく。
	16 ～ 25	○グループ課題の追究 ・グループ課題を追究していく。 ・プレゼンの作成 *中学生議会への提言まで、まとめる。
	26 ～ 27	○中学生議会に向けての事前準備 ・プレゼンの準備、確認 ・発表の練習
発 信	27	○中学生議会 ・町長による答弁 ・学習への評価
	29 ～ 30	○学習のまとめ作文にまとめる ・学習の成果と残された課題を作文にまとめる ・題材を振り返ってのアンケート *題材のカリキュラム評価

3. 授業実践の実際

(1) オリエンテーション

自分たちが生活する地域の課題を知らなければ、何を提案しても実社会では相手にされないという切実感を持たなければ、自らが関わり現実化を志向する提案にはならないことから、教科学習と総合的な学習と連動させ、学習の場を学校内(教室)にとどめないという点である。その意味で、学習のスタートであるオリエンテーションにおいて、生徒たちがどのような課題意識を持つか(教師の視点からみれば「持たせることができるか」)で、総合的な学習の方向性は決定してしまう。

授業設計において、最終目標を「主権者として必要な能力の育成」とし、町がかかえている課題に真っ向から挑む学習に設定したことから、生徒たちに示す学習テーマを「私のふるさと飯綱町～十五歳の提言」としたことを理解させ、1年間を通して主体的に学習を展開させるための、オリエンテーションを実施した。

1年生からのこれまでの活動を振り返り、今年はその集大成として、自分たちの生活する町とどのように関わっていったらよいかを学び、学習の成果を町に提言するということを示した。具体的には、下図のスライドで、7つのポイントから大テーマ「私のふるさと飯綱町～15歳の提言～」を設定したことと、最終目標は町民とのコラボによる「飯綱町の創造」に向けての知のクラスマッチにしたことを説明した。

私のふるさと飯綱町～15歳の提言～

- その① 今までの学びを発展させる学習
- その② 君たちの願いから始まった学習
- その③ アカデミックな学習 (アクティブラーニング)
- その④ 町や地域とコラボレーションする学習
- その⑤ 町に貢献し、活性化させる学習
- その⑥ 地域に出て追究する体験的な学習
- その⑦ チームで解決する問題解決的な学習
- その⑧ “15歳の提言” は知のクラスマッチ

↓

これからの飯綱町を創造しましょう!

[図：説明に使用したスライド]

特に提言は町長が直接聞くので、実行可能性が高い提案は町の政策に反映されることを強調し、生徒に学習の現実感を示し、学習に対する目的意識を持たせようと試みた。生徒の学習への意識付けと、教師の側から生徒の意識の実態把握との2つの観点から学習シート^{*10}を作成した。以下のA生の記述にもみられるように、能動的で地域に密着した体験的な学習活動であることと、学習の成果が直接政策という自分たちの生活に反映される可能性があるということで、生徒の学習意欲を高めることができたといえる。

[学習カード：A生の記述]

1. オリエンテーションに参加しての感想

今回のオリエンテーションが、今後の活動や、目的を理解することができたのでよかったです。前は主に自分で学習を深めていくような感じだったけど、今回はグループで学習を進めていく部分もあるので、より良い飯綱町にできるよう、一つ一つの学習を頑張っていきたいと思いました。

2. (今の自分)

○(追究力)→自己評価5

わからないところがあったら聞いたり、逆に自分がわかる所は教えてあげたりと理解できるまで追求していると思う

○(表現力)→自己評価4

班や近くの友達には出来ていると思うけど、授業中発言する場面でなかなか挙手できないところがあるから。

○(関心・意欲)→自己評価5

今までにも地域の活動に参加したりしてきたし、今回の学習を通してより良い飯綱町にしたいという思いがあるから。

3. (これからの私)

この飯綱町にあった方法で、より発展させていくにはどうしたらいいのか学んでいきたい。また地域に貢献する活動を行うことで、人のために頑張るすばらしさを学びたい。これらの学習を通して自分の考えを相手に伝えるように、しっかり発言ができるようになりたい。

4. 興味をもった学習

中学生議会

自分の考えを発表することで、もしその考えが良ければ実際に政策に取り入れてもらえることに興味を持ったから。また自分の考えを他者の視点から見てどうなのか意見を聞いてみたいと思ったから。

5. 講演会で先生に聞いてみたいこと。

自分の意見をより相手に伝えるようにするには何が大切ですか

6. 追究していきたいこと

飯綱町の良いところを他の県や人にアピールするには

飯綱町にとって、これからどのようなことが課題になって来るのかその対策は。

(2) 大学教員による授業

この授業の位置づけは、「社会」「理科」「道徳」等と連携しながら、動的に追究させることで、教科学習の関連性や学習の目的が明確になり、生徒自身が主体的に学習に取り組めるようになる内容である。また、限られた学習時間の中で運用することを考えると、精選と効率化と深化の三側面から授業を改善するよい例になると考えられる。

この実践の教員の振り返りで、「社会科と関連させて学習を進めることはできると感じた」「私のふるさと」と絡めて、音楽科では、学年合唱に「郷愁歌」を位置づけた」とあるように、教師自らがカリキュラムをデザインして実践することの重要性を、OJTとして研修することのできる場であった。

しかし、実際にはまだ指導する教員の中に、不安感があり、水先案内を誰かにしてもらいたいとの思いから、具体的に学習の進め方について、教育方法を専門とする大学教員から生徒たちに説明する授業を以下のような内容で設定し、教師のOJT研修の場とした。

①多様な視点を持たせる

学習計画を作成する際、教師の側の課題ともなったことであるが、地域の実態把握ができていないようで、細かな内容については理解されていないことを自覚し、地域に対する愛着を持たせることから、学習を展開させていこうと試みた。^{*11}

地域で日々生活している生徒にとって、「日常」はほとんど意識していないものである。そこで、日々にげなく生活している「飯綱町を知り、どのように自分が関わるか」という課題意識を持たせるために、「政治参加とは何か」「日々暮らしている町の実態を知ることの大切さ」という視点で授業を行った。授業後の感想には、「今まで選挙も人ごとだと思っていたけれど、町の将来を決めるために何ができるか考えていきたい」といったものが多かった。

また、授業の中では、「飯綱町をどのくらい知っているか」という課題を提示し、以下の項目について、調査することを指示した。「地名の由来、神社・寺院、総括的な歴史、産業の変遷、集落の成り立ち、自然科学史、災害史、史跡等、石碑等、食生活の歴史、慣習、伝承、まつり、方言、植生分布、生息生物等、地質、土壌、河川、地域にある施設」。これらの内容を調べたことは、後の地域に出たの追究活動に大いに役立った。

②町の強みと弱みを考える

課題追究といっても、テーマの絞り込みは、生徒にとって漠然としていて難しい部分もある。そこで、自分の関心がどこにあるのかを明確にすることを目的として、「小さな子どもたちにとって、小学生にとって、中学生にとって、高校生にとって、若者にとって、子育て世代の人にとって、熟年世代の人にとって、高齢者にとって」といった世代ごとに、

生徒自身が考える「町の強み」と「町の弱み」について考えさせた。^{*12} ここでの思考が、提案において、高齢者にとって住みやすい町づくりという視点をかなりのグループが扱うきっかけとなった。

【学習カード：A生の振り返りの感想】

今回の講演会を聞いていちばん思った事は、「自分で考え自分から行動する」ということです。誰かが何かをしてくれるのを待っているのではなく、勇気を持って自分から一歩踏み出すことが大切なんだと思いました。

また中学生にしか感じられないもの、見えないものを大切にしたいと思いました。当たり前の日常の中からアレンジを加え、非日常のものにしていくことができる人が一流の人だと思ったので、まわりのものをよく見つめて、飯綱町にしかできないものを発見できればいいなと思いました。

【学習カード：A生の(なりたい自分)】

自分で考えて自分から動ける。自分の考えを相手に伝えるように言える。

【学習カード：A生の(飯綱町のどんなにことについて考えたいか)】

自然について・食べ物について、(特産物)→飯綱町だからできるもの、あるものをPRしていく。

(2) 副町長による講演

行政とは何かを学ぶことで、町を支えていくのは町民一人ひとりなのだという意識を持たせることを目的に、行政当局者で総務省から出向している副町長による講義を設定し、町民の思いを具現化するとはどういうことなのかを学んだ。

副町長からは、町の施策や意義が説明され、「地域に恩返しをしたいという気持ちが地域創生につながる」と説いた。生徒たちは、町の予算や産業などについて質問し、中学生議会に向けて、自分たちの課題の明確化に向けてのヒントを探った。^{*13}

(3) テーマを絞り、グループで追究する

各自関心のあることを追究しようといっても、生徒自身でテーマを絞り込むことは難しい。そこで、生徒たちの関心と、町の施策等を考慮して設定した学習目標を、大テーマとして提示した。このテーマをベースに各グループで、提案する内容を絞り込むという作業に取り組んだのだが、やはり生徒たちのこれまでの経験知では、「町のことに取り組みたい」という意気込みはあるのだけれど、いったい何に焦点を当てたらよいかかわからない状況であった。

この場面では、教師が生徒たちが取り組もうとしていることが、どこまで追究可能な内

容な、発展性のある内容なのかを予測して、指導助言することが重要となるのであるが、本実践では教師の側にもどのように対応してよいのかの迷いがあり、絞り込んだ指導ができずにいたというのが実際であった。

そこで、学年の先生方と急きょ対応策を考え、筆者が全18グループと懇談し、進捗状況とどこで困っているのかを確認し、それぞれのグループの到達予想を立て、よいところを伸ばしつつ、修正しなければ行き詰まりそうな方向については、考え直す場合の視点を示すという学習を組み込むこととなった。そのため、職員の本実践の反省として、「小山先生の指導が遅れて、その間に子供達が追究を進めていたので、提言を根本から直されたときは、それまでの時間が少しもったいなかったように感じた」という内容が出されたが、地域を生徒とともに教師が学ばざる得ないという状況をどのように解決していくかが大きな課題として残された。同時に、18グループとの懇談には3時間を要してしまい、かなりの時間オーバーという事態になってしまい、地域の課題を生徒自らが見出し、学習問題を設定し、追究していくまでの学習過程のあり方について、教材研究も含めて課題が残された。

しかし、以下のように課題が決まったことで、地域貢献活動で何をすればよいのか、パネルディスカッションで何を学ばばよいのかが明確になり、生徒たちの学びに向かう原動力が十分に分に蓄積された。

テーマ1：「町民が生きがいを持って生活できる町に必要なものはなにか」

グループ：①高齢者との交流、②牟礼西小学校の跡地利用、
③新しい店を飯綱町につくるべきだ

テーマ2：「飯綱町の強みは何か。飯綱町の強みにひかれて人々が訪れる町づくり」

グループ：①農業のオーナーをやる、②農業民泊プラン
③山菜オーナー制度をつくって、飯綱町の自然にふれて観光客を増やす

テーマ3：「未来に向けて「持続可能な町」とはどのような町だろう。すべての世代が安心して生活できる町づくり」

グループ：①飯綱町のりんごを通して、飯綱町を知ってもらう！
②飯綱町交通事故0宣言、③子育てしやすく、住みやすい町

テーマ4：飯綱町の原風景とは何だろう。飯綱町が持つ自然環境や社会環境を生かした町づくり

グループ：①商店街の活性化、②里山を利用したイベントを行い飯綱町にしかない自然環境の魅力を知ってもらう、
③近隣の市町村とコラボレーションした観光政策

テーマ5：飯綱町が持つ「歴史や産業」資源を活用した飯綱町そのもののブランディング戦略

グループ：①牟礼駅の発展と駅弁、②りんごを外国に輸出させるより、関東へ売り出そう！③飯綱町のお弁当を作って町をPR

テーマ6：学級独自テーマ

グループ：①夏の観光施設をつくる、②なぜ飯綱中の講堂を年数回しか使わないのか？
③飯綱町PRツアー

(4) 様々な立場の人の話を聞き検討する

地域貢献活動を中心に、地域に出て提言のヒントを求めて地域の人々から話を聞いたり、様々な体験活動を行ったりすることで、実社会を肌で感じ、グループで提案について追究するという時間を総合的な時間や夏休みを活用して、じっくりと確保した。

カリキュラム・マネジメントの観点で見ると、連携先で何が期待できるかを学年会で検討し、表1のような内容を想定するという作業を行い、生徒たちには表2のような「どこで」「何を」「どのように」学んでくるのかの指導を具体的に確認することで、本来の学習目標である主権者教育という視点で学習内容と指導内容の確認がなされ、教師にとっては体験型の学習活動の実践におけるOJT型の研修が展開された。

表1 連携先で期待できる学習内容

連携する地域の団体	学習場面等	地域の具体的な課題
町内保育園	町保育園の体験学習、地域の住民が集う「いきいきサロン」などに参加し取材し、住みやすい町づくりを追究し、中学生議会で提言する。	・飯綱町の人口は、自然減、社会減の現状にある (消滅可能都市)
産業観光科 (農政係)	町産業観光課の協力を得ながら、地域貢献活動で希望する生徒に農業体験をさせ、体験を通して課題を考えさせていく。	・農業のブランド化(町のりんごをどのように売り出していくか) (農業のブランド化)
町社会福祉協議会	町社協の協力を得ながら、地域貢献活動で地域の方や独居老人とかわり、インタビューする中から課題を考えさせていく。	・高齢者の増加といびつな人口ピラミッド
町商工会	追究の中で、必要であれば昨年度職場体験学習でお世話になった事業所や商工会にインタビューしていく。	・町内での食料品等を購入できる店が少ない。 (買い物弱者) ・観光客が減少している
住民環境課	住民環境課の協力を得ながら、地域貢献活動で希望する生徒に駅前美化活動をさせ、体験を通して課題を考えさせていく。また、誰もが利用しやすい公共交通を考える。	・主要道のごみのポイ捨てがなかなか減らない

表2 地域貢献活動内容

	目的	主な活動
① 農業体験	農家に訪問し、農業体験をし、地域に貢献する。 飯綱町の農業に関わる課題とこれからの農業のあり方について考える。	各農家での農業体験 インタビュー
② 環境体験	ゴミ拾い活動を行い、町内美化に貢献する。 ゴミ処理について関心を高め、町の環境に関わる課題を考える。 牟礼駅周辺の現状視察	ゴミ拾い活動 分別活動 町のごみ処理の学習牟礼駅 周辺の現状視察
③ 福祉体験Ⅰ	福祉施設に訪問し、福祉体験をし、福祉に貢献する。飯綱町の福祉に関わる課題とこれからの福祉のあり方を考える。 (*社協管轄)	福祉体験 インタビュー (事業所の方、利用者)
④ 福祉体験Ⅱ	福祉施設に訪問し、福祉体験をし、福祉に貢献する。飯綱町の福祉に関わる課題とこれからの福祉のあり方を考える。 (*社協管轄外)	福祉体験 インタビュー (事業所の方、利用者)
⑤ 高齢者交流	わらびの会に参加し、町の一人暮らしの高齢者等と交流する。 町の高齢者福祉に関わる課題とこれからの高齢者福祉のあり方を考える。	高齢者との交流 インタビュー(高齢者)
⑥ 保育体験	町の保育施設に訪問し、保育体験をし、貢献する。 飯綱町の保育に関わる課題とこれからの保育のあり方について考える。	保育体験 保育師へのインタビュー

地域貢献活動取材した新聞記事¹⁴に、「『生きがいは何ですか』と質問すると、『趣味が生きがいで、触れ合える場所が大切』との意見が出た。飯田さんは廃校になる町内の小学校の跡地利用に関心があり、『活用する上で)とても参考になった』と話した。(略)10日投開票の参院選について、飯田さんは『住民の声を反映した政策が出るのが重要だと思う』と話し、将来の投票へ関心を高めていた」とあるように、目的意識の高さと学習のねらいである主権者教育の学びが展開されたことがうかがえる。

同時に、地域の活性化に取り組んでいる町内外の様々な立場の方を招いてのパネルディスカッションを開き、自分たちの追究の方向が正しいかを確認する場も確保された。パネルディスカッションの様子を伝えた新聞記事¹⁵に「後半は生徒たちが次々に質問。住みやすいまちづくりに関心があるという荒井隆斗さん(14)は「10年後の町で子育てする人たちのために、どんな環境を整える必要があると思いますか」と尋ね、寺島渉議長は「給

食費の無料化など、思い切った施策が必要」と答えた」とあるように生徒たちにとって、この学習では、地域の方々から知恵をもらう場であったと同時に、地域の方々が見ついていなかった町の良さを提案できた場でもあった。

(5)発表に向けての学習のまとめ

社会科の政治単元の学習では、これまでの追究をベースに主権者として社会に関わるこの意味と政治システムの理解の学習へとつなげた。実社会を学ぶの成果として、自分たちが社会に働きかけなければ社会は変わらないこと、そのためには議会が必要で選挙は重要な意思表示であることが理解できた。

本実践では、主権者教育の立場から、いかに他者に自分たちの思いを伝えるかということを生徒に意識化させて学習活動を展開してきた。

そこで、自分たちの学びのまとめを2段階で行うこととした。

第1段階は、文化祭での意見文発表に向けて、これまでの学びを原稿用紙4枚で、他者を説得できるようにまとめるというものである。

第2段階は、各自まとめた意見文を基に、中学生議会で2分以内で発表する班のプレゼン原稿とスライド等を協働で作成するというものである。

中学生議会では、班ごとの提案発表なので、原稿を作成する生徒、プレゼンを作成する生徒といったように作業が分化され、中には他の生徒から指示されて作業のみを行う生徒が発生してしまう可能性も予想されたので、全員がきちんとプレゼンに向けてまとめをするための方策として、2段階の学習活動を設定した。

しかし、これまでの学習では、「まとめ方」については、国語の学習等で既習のものという教師の暗黙知が働いていた部分もあり、体験活動をしているので、具体が生徒にはあるので、どうにかまとめることができるであろうという思惑が教師の側にはあったが、「発信」がこの学習ではキーワードとされていることから、表現力の育成を改めて確認する意味も含めて、まとめ方のワークシート^{*16}を作成して、技能的にまとめ方の学習を組み込むこととした。この過程は、教師にとってカリキュラム・マネジメントの根幹となる学習評価について、どの場面でどのように指導していくのかという観点での研修になった。

本来ならば、国語や特別活動の学習との連動で学習時間を確保することが望ましいところであったが、実際は授業時間の確保は難しかったので、家庭学習等を活用しての各自のまとめの作業を行わせた。結果として、個々のまとめは、自分が何を課題として学習を展開したのかを述べ、体験活動を通して何が学べたのか、そして、町に対して何を提言したいのかを簡潔にまとめることができた。また、班のまとめも、単に何かをしてほしいといったものではなく、地域調査等をもとに、自分たちがやらなければならないこと、町にしてもらいたいことといった具体を示しての提案にまとめ上げることができた。

私は今年、5月から総合の時間で飯綱町の学習を行ってきました。皆さんは飯綱町の強みは何だと思えますか？それぞれいろいろな考えがあると思いますが、私はその中で農業が強みだと思えます。今、飯綱町のりんごや野菜やお米などのおいしさはたくさんの方に広がっています。そんな飯綱町の強みを生かして、もっとこの町の良さをPRするにはどうしたらいいか。まずこの疑問が私たちの中で浮かびました。

そこで見つけたのが農業民泊の取り組みです。農業民泊とは町外の中学生や一般の方を飯綱町の農家が受け入れ、農業を体験してもらったり家に泊めてご飯と一緒に食べるというものです。この取り組みにより、知名度アップや女性、お年寄りの活躍の場の確保などなど町にとっていいことがたくさんあります。

しかし、逆に農業民泊の欠点はないでしょうか。

そう考えた私たちは農業民泊を運営している方にお話をお聞きしました。するとさまざまな課題があることがわかりました。特に私が思ったのは食事の問題です。農業を教えるのは楽しいが、料理を人数分、しかもお客さんに出すように豪華にしないといけないので負担が大きいことを知りました。なんとかこの問題を解決する策はないかと考えました。まずはたくさんの方に話を聞き、情報を集めることから始めました。たくさん電話をかけたりしなければならなかったので緊張して大変でしたが、回数を重ねるごとに上手に話せるようになりました。普段はあまり電話をかけることがないので、これも良い経験になったと思えます。こうして得た情報から良い解決策はないかとみんなで考え、ある一つの案にたどり着きました。それは町の加工場に郷土料理を作ってもらい、農家に提供してもらおうというものです。こうすれば農家の負担は減り、加工場も仕事が増えます。

そして夏休み中、私たちは加工場の方とこの案の話し合いを行いました。すると加工場の方に、「それはいい案ですね。やってみましょう。」と賛成していただきました。今まで取り組んできたことを認めてもらえてすごくうれしかったです。これからは、この案を実際に農業民泊に取り入れてもらえるよう、学習を深めていきたいです。

これらの活動から、私はたくさんの方のことを学ぶことができました。

一つは人に頼らず自分で考え、自分で行動するということです。人に頼るのはとても楽で簡単です。私自身も今まで、この町のことは大人がやってくれるだろうとどこか他人ごとのように考えている部分がありました。しかし、今回この学習を通して中学生だから見えるもの、私だからわかるものが大切なんだと思えました。もちろん大人の方の助けもたくさんお借りしました。ですが、壁にたくさんぶつかりながらも、人の力に頼らず、自分でここまで来たことで、大きな自信を得ることができました。

もう一つは飯綱町の良さは私たちの日常生活の中にあるということです。例えば、夏によく見る蛍も都会の人から見れば、とても貴重な体験になるのです。このように普段、当たり前に見えている光景も見方を変えれば飯綱町の魅力になることを知りました。

この学習を通して私は、教科学習だけではわからないたくさんの方のことを学びました。そして、今までよりさらに飯綱町のことを好きになりました。これからはこの飯綱町の良さをもっといろいろな方に知ってもらえるような取り組みをしていきたいです。

(6) 中学生議会で成果を問う

学習の成果をどのように評価するかが、大きな課題であるが、この学習では、町長をはじめとする行政、町議会議員の出席のもとで、中学生がこれまでの成果を提案し、実際に町長が答弁することとした。

以下が各班の提言内容である。

テーマ1 町民が生きがいを持って生活できる町に必要なものはなにか

組	班	町への政策提言	提言内容
1	4	高齢者との交流	①高齢者の方との交流をふれあい祭りなどで取り入れていく。
2	6	牟礼西小学校の跡地利用	①西小学校校庭を誰でも利用できる公園にする。 ②ひまわり畑を作る。
3	4	新しい店を飯綱町につくるべきだ	①なぜ飯綱町に新しい店が必要だと思ったのか？ ②まとめ

テーマ2 飯綱町の強みは何か。飯綱町の強みにひかれて人々が訪れる町づくり

組	班	町への政策提言	提言内容
1	5	農業のオーナーをやる	・農業をやっている人にオーナーになってもらって交流し、人を増やす。
2	1	農業民泊プラン	①農業民泊では食事を準備することが農家の大きな負担になっている。 ②チア三水さんと協力して食事の準備をしてもらおう。 ③農業民泊を行うことによる、町への影響
3	2	山菜オーナー制度をつくって、飯綱町の自然にふれて観光客を増やす	①なぜ、観光客を呼ばないといけないのか？ ②農協の人の意見 ③山菜資源の取りすぎの問題 ④山菜オーナー制度の必要性

テーマ3 未来に向けて「持続可能な町」とはどのような町だろう。すべての世代が安心して生活できる町づくり

組	班	町への政策提言	提言内容
1	6	飯綱町のりんごを通して、飯綱町を知ってもらおう！	①東京に売るために、広告などで売り出していく。 ②実際に食べてもらう。 ③青森と違いなりのんごのちがいがいい
2	3	飯綱町交通事故0宣言	①なぜ道路を整備するのか？ ②危険箇所についての子どもたちの声 ③危険箇所についての高齢者の声
3	5	子育てしやすく、住みやすい町	①提言設定の理由 ②アンケートから分かった課題 ③課題に対する解決策 ④他の町の子育て資金について

テーマ4 飯綱町の原風景とは何だろう。飯綱町が持つ自然環境や社会環境を生かした町づくり

組	班	町への政策提言	提言内容
1	1	商店街の活性化	①商店街の活性化についての商店街の人の声 ②町の人声 ③高校生の声 ④商店街の今
2	4	里山を利用したイベントを行い飯綱町にしかない自然環境の魅力を知ってもらう	①飯綱町が持つ自然環境
3	6	近隣の市町村とコラボレーションした観光政策	①なぜ、飯綱町に人が来ないのか？ ②町内の人から見た飯綱町に必要なもの ③私の案 ④私たちの提言

テーマ5 飯綱町が持つ「歴史や産業」資源を活用した飯綱町そのもののブランディング戦略

組	班	町への政策提言	提言内容
1	3	牟礼駅の発展と駅弁	①なぜ駅弁なのか？ ②駅弁のメリット ③牟礼駅弁レシピ、弁当の写真
2	3	りんごを外国に輸出させるより、関東へ売り出そう！	①なぜ、飯綱町のりんごを外国に輸出するより、関東へ売り出すのを優先させるのか？ ②なぜ、関東など東京に売り出せば、りんごの存在を広めてもらえるのか？
3	1	飯綱町のお弁当を作って町をPR	①飯綱町の郷土料理の紹介 ②なぜ弁当をつくらうと思ったのか？ ③お弁当をつくってPRすることの賛成の声 ④お弁当をつくってPRすることについての反対の声

テーマ6 学級独自テーマ

組	班	町への政策提言	提言内容
1	2	夏の観光施設をつくる	①提言の理由 ②観光施設案 ③レジャースポーツ案
2	2	なぜ飯綱中の講堂を年数回しか使わないのか？	①講堂の使用状況について ②講堂に関わる周りからの声 ③今あるイベントで講堂でもできる講演 ④日曜日利用できることがある。
3	3	飯綱町PRツアー	①なぜPRする必要があるか？ ②PRの仕方 ③PRツアーの効果 ④？

[それぞれの提言に対する町長の答弁]

<p>テーマ1 「町民が生きがいを持って生活できる町」 提言 1 「いきいきサロン」に、中学生が学校行事として参加し、高齢者と交流したらどうか。(1組4班) 町長 中学生だけでなく、高校生も参加しても良いし、時には高齢者が学校に行っても良いのでは。十分検討し、取り組んでいきたい。</p>

提言 2 牟礼西小学校の校庭を、どの世代でも楽しめる公園にしてほしい。(2組6班)

町長 若いお母さんを中心に子供を安心して遊ばせる公園が欲しい、お茶をする場所が欲しいという声もある。跡地利用の方策の一つとして考えていきたい。

提言 3 町の中心部に食料品、衣料品などを扱う大型スーパーを建設してほしい。(3組4班)

町長 飯綱町に住みたくない理由として、「買い物をする場所が無い」と答える人が多い。店の協力が無いと実現は難しいが、精力的に取り組んでいく。

テーマ2「町の強みにひかれて人々が訪れる町づくり」

提言 4 町の強みであるりんごを東京へ販売したらどうか。りんごの情報発信の強化も必要だ。(1組6班)

町長 東京で一流と思われることが重要だ。ネットやイベント販売、またJAと協力し、東京に町のりんごを売り込んでいきたい。

提言 5 農家民泊の認知度を上げるような工夫が必要。家庭での食事の提供は、チア三水の協力を受けたらどうか。(2組1班)

町長 現在、農家民泊が動き始めているところであるので、しっかりと制度化していきたい。農家民泊のPR、町からの支援補助はこれからも続けていく。

提言 6 休耕地を利用した山菜オーナー制度をつくってほしい。(3組2班)

町長 荒廃地で山菜を育てるといふ町おこしを考えてみる必要がある。山菜料理で都会の人をもてなすという方向に繋がればすばらしい。産業観光課を中心に考えていく。

テーマ3「すべての世代が安心して生活できる町づくり」

提言 7 飯綱町の知名度を上げ、呼び込んだ若者とお年寄りが農業で交流し、健康長寿を目指したらどうか(1組5班)

町長 町とりんごと長寿をからめていく発想はおもしろい。町の知名度アップの施策は、単発でなく、継続していくことが重要と考えている。

提言 8 飯綱町の交通事故0を目指し、お年寄りが安心して歩ける道路整備をしてほしい。(2組5班)

町長 高齢者が多くなり交通事故は多くなってきている。ご指摘いただいた危険な箇所は、しっかりと取り組んでいきたいと考えている。

提言 9 飯綱病院に病児託児所を併設したらどうか。多子世帯にはゴミ袋を無償にしてほしい。(3組5班)

町長 病後児保育の希望が多く、病院の先生とも相談している。この提案は、子どもを育てやすい、女性に優しい取り組みのシンボルとも考えられるので、一生懸命取り組んでいきたい。

テーマ4「町が持つ自然環境や社会環境を生かした町づくり」

提言 10 牟礼駅前に、高校生等が気軽に寄れる、食堂をつくることに町が支援してほしい。(1組1班)

町長 駅前で軽食を販売したらという提言は賛成だ。駅前整備の際、人が集まれるような場所を考えていきたい。北しなの線の利用促進のためにも、商店街の活性化は必要だ。

提言 11 身近にある景色の魅力が伝わるような、町のパンフレットを作してほしい。(2組4班)

町長 町の最大の財産は景観を含めた豊かな自然だ。町では景観条例を研究している。提案のような魅力的なパンフレットを作成していきたい。

提言 12 近隣の市町村と協力し、北信濃を巡るツアーを組み、地域全体を活性化してほしい。(3組6班)

町長 観光客は自治体の枠など考えず行動している。既存の広域観光組織でも周遊観光

は重要なテーマだ。今回の提案を参考にしていく。

テーマ5「歴史や産業を活用した町のブランディング」

提言 13 町の農産物のおいしさを知ってもらうために、地元食材を使った駅弁を作り、牟礼駅で販売したらどうか。(1組3班)

町長 町のおいしい米や野菜を使って駅弁を作るという発想は賛成だ。どこでどのように売るか、道の駅で駅弁を売るといった手法もある。名物になれば、町おこしにもつながる。

提言 14 町のりんごを関東圏で売り出すために、ゆるキャラの活用、ポスターの作成などにより、町のりんごの認知度を高めたらどうか。(2組3班)

町長 大消費地の東京で認められれば勝ったようなもの、最高の評価になる。しかしPRのやり方が難しい。町のりんごの味は最高なので、良いPRを考えていきたい。

提言 15 郷土料理の入ったお弁当を、飯山駅で販売できるよう働きかけてほしい。(3組1班)

町長 旅の興味は食。郷土料理を入れた弁当を作れば、人気が出るのでは。東京駅で売れるような、本当に良いものができたらいいと思う。

テーマ6「独自テーマ」

提言 16 観光客の町滞在時間を長くするため、天狗の館で宿泊をできるようにしたらどうか。(1組2班)

町長 宿泊施設というのは、経営面で実は難しい。天狗の館を宿泊施設にするには、法的な手続きが必要になるが不可能ではない。現場と相談してみたい。

提言 17 飯綱中学校講堂のバリアフリー化を進めてほしい。(2組2班)

町長 講堂に限らず、車いすの方が中学校を利用するときに不便に感じていることについて、解消に向け取り組んでいきたい。

提言 18 公式動画をつくり町をPRしてほしい。またポスターにQRコードを付けるなど、ネットを活用したPRを強化してほしい。(3年3組)

町長 公式動画の作成、QRコード、SNSの活用、町ホームページの改良を実施していく。町のPRにITの活用は必然。フリーWi-Fiなど、ネット環境の整備も考えていく。

同時に、この学習を「知のクラスマッチ」と銘打って開始したことから、生徒・議会・行政、それぞれの立場で優秀提案を「投票」で決めることとした。

「模擬投票」が、主権者教育のひとつの手法として、各地で行われているが、本実践において投票は、「模擬」ではなく町長が真剣に生徒たちの提案に答えるというもので、町長からは町政に活用できるものは取り入れていくと評価基準が示されていることから、現実的な「投票」ということになり、自分たちの意思決定が、直接自分たちの生活に反映されることを学ぶ場として設定された。その意味で、授業を実践する教師の側にとっては、中学生議会までの生徒たちに示してきた「学びの道筋」の妥当性がとわれる場となった。つまり、カリキュラムそのものの外部評価の場となったのである。

実際の中学生議会で、町長は提案すべてに対して、「良さと課題」「町としての対応」を答弁し評価した。結果、生徒たちは、達成感を得ることができ、農家民泊を提案した生徒は、議会後「ひとつの政策を実現するためには、いろいろな段階を踏まなければいけな

いと感じた。私たちも民泊で町内に来る県外の中学生と交流して盛り上げ、町の活性化に貢献したい」と感想を述べた。投票結果は、三者で評価が分かれた。議会を経て、新たに三者の評価が分かれた理由を考察せよという課題が生徒たちに示され、意思決定の難しさを改めて生徒たちは学ぶこととなった。

[A 生の班のまとめ:プレゼン原稿]

<h2 style="text-align: center;">農業民泊プラン</h2> <p style="text-align: center;">飯綱町の強み</p>	<p>僕たち 1 班は農業民泊について追究してきました。</p> <p>農業民泊とは農業経験者が仕事をしながら自宅を民泊施設として利用可能にし、利用者は農家の方と農業体験したり、食事を共にすることでその地域と直接触れることのできる営みです。</p>
<h3 style="text-align: center;">農業民泊の良さ</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・飯綱町の知名度アップ ・女性、お年寄りの活躍の場の確保 ・町のリピーター化 ・副収入が得られる。 ・町の良さを再発見、発信できる 	<h3 style="text-align: center;">農業民泊の課題</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・子供がいてお客さんの世話がしきれない ・農業野仕事が多忙で教える時間がない ・布団などの準備が大変 ・食事の準備

農業民泊にはたくさんの良さがあります。

飯綱町の知名度アップや女性、お年寄りの活躍の場の確保。そのほかにもこのようなメリットがあります。農業民泊は様々な可能性を秘めており、飯綱町の発展に大きく貢献できる活動と言えるでしょう。

しかし、様々な課題があることも事実です。

子供がいたり、農業の仕事が多忙でお客さんの世話がしきれないお客さんの世話がしきれないなどのデメリットもあります。そして私達が 1 番問題だと思ったのは寒事の問題です。料理をお客さんにあわせないといけなかったり、豪華にしなければいけない。この家事の負担が大きいことも農業民泊の課題の 1 つです。農業民泊にたくさんの魅力がありながらなかなか受け入れが進まないのはこの課題が解決されていないからではない

でしょうか。

そして私達はもっと農業民泊について知るために実際に農業民泊を行っている農家さんにお話を伺いました。そのときの映像がこちらです。ご覧ください。

〔ビデオを流す〕

これが今の農業民泊の現状です。生の声を聞くことでさらに農業民泊について深く考えることができました。

そこで僕達は話し合いを行いある1つの案にたどりつきました。それは町内の加工場で郷土などの食事の準備をしてもらい、それを農業民泊を行っている農家に提供するというものです。このシステムをつくれば農家の家事の負担を減らすことができます。こう考えた僕達は町内の加工場を調べてみました。すると「直売所さんちゃん」の隣にある「チアさみず」という加工場があることが分かったので、夏休みの時間を使って「チアさみず」さんを訪問しお話を伺いました。

その結果、1日3食のうちどこで食事を頼むか選択できるようにし、費用は1000円～2000円の間、受け渡しは加工場の前という条件なら協力していただけることになりました。

私たちの考えたシステム



チア三水さん



農家さん

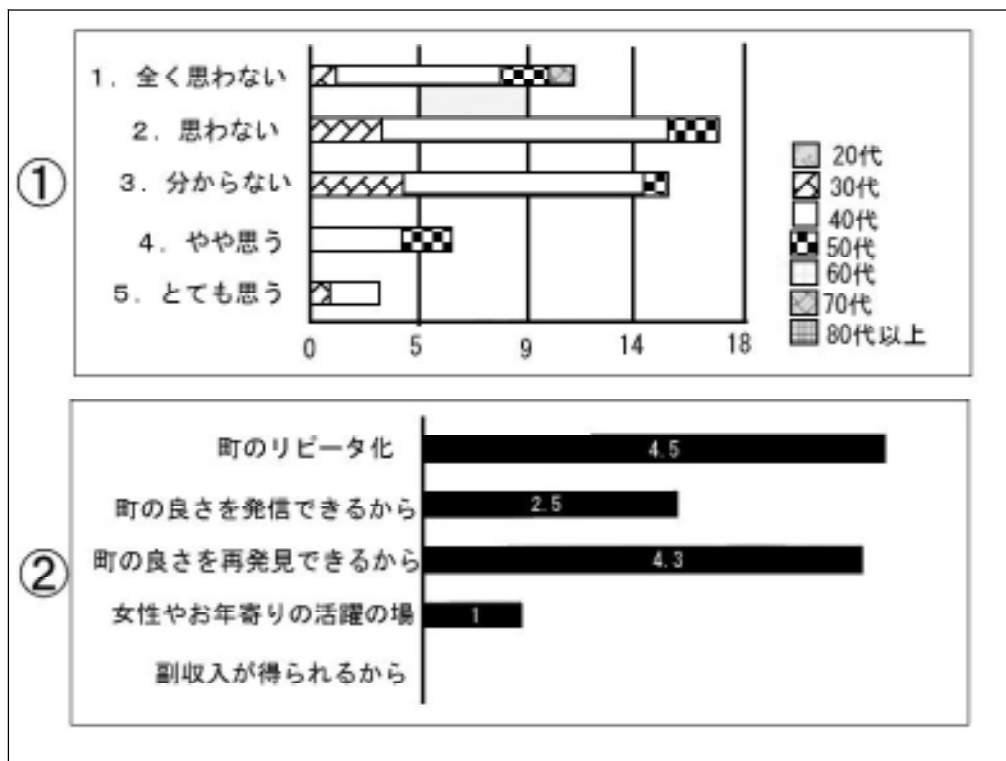
- ・ 1日3食のうち一食
- ・ 費用は1000円～2000円
- ・ 受け渡しはチア三水さんで行ってもらう

僕達はこの農業民泊の1つの課題を解決させるシステムを成立させました。このシステムにより農業民泊が前より受け入れやすくなるのではないのでしょうか？

そして私達は実際に飯綱町の農家の方は農業民泊についてどう考えているかアンケートをとりました。その結果がこちらです。

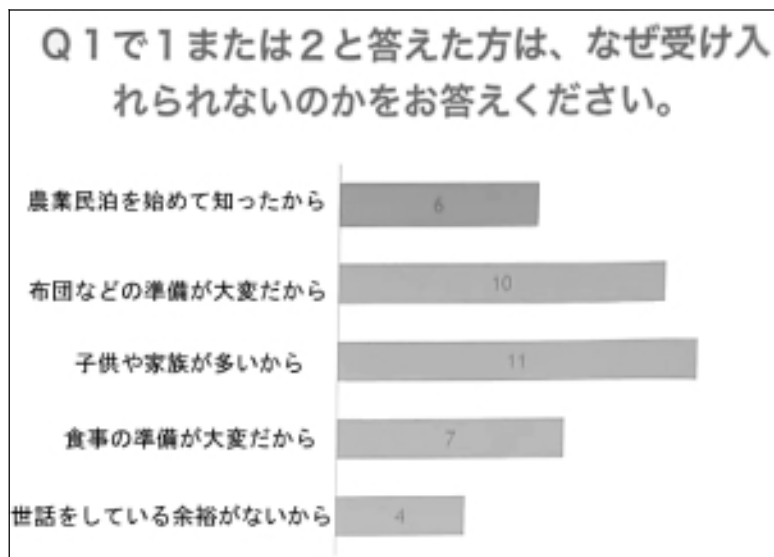
①は「農業民泊を受け入れたいと思いますか？」という質問に対しての回答のグラフで

す。②は①の質問に対して5のとても思う、または4のやや思うと回答した方の理由です。これらのグラフからいま飯綱町の農家の方が農業民泊に対してどう考えているかお分かり頂けたと思います。



しかし、みなさんこちらのグラフをご覧ください。

これは先ほどの質問に対して1のまったく思わないや、2の思わないと回答した方の理由です。



子供や家族が多いからという家庭的な理由で受け入れられない方がもっとも多くいましたが、私達が一番注目したのは農業民泊を初めて知った人が多かったことです。この結果からまだ農業民泊め知名度が低いことが分かりました。

飯綱町の今の農業民泊の状況を理解して頂けたでしょうか？先ほどのグラフからも分かるようにまだ農業民泊のことを知らない方がたくさんいます。農業民泊は町にとって良いことがたくさんあり、今回僕達が提案した案で1つ農業民泊の課題を解決できると思います。なのでぜひ町でこの取り組みをPRして頂き、農業民泊の魅力をたくさんの人に知ってもらいたいと思います。

町への提言

- ・農業民泊をもっとPRして欲しい
- ・農業民泊をもっと支援して欲しい

～農業民泊で飯綱町の良さを県外へ～

また農業民泊をもっと町で支援して頂きたいと思います。
以上で1班の提言を終わります。

4. まとめ

(1) 生徒の学習後のアンケート^{*7}からの考察

①本学習についての満足度（達成感）

94%の生徒が満足し、自己の成長につながったと回答していることから、生徒にとって学びがいのある学習だったと考えられる。

判断理由として、満足度について、満足とはしながらも「追究していく中で、最初の頃にはおもいもつかなかったような考えが生まれ、班の人と協力して、しっかり定まった提言をつくることができた。少し課題が残ったので、少し不満」と、自己の成長について、「自分だけでなく、班でやったことでクラスメイトとたくさん関わりながら学習することができて良かったし、地域の方や高齢者の方と話をするときに気を使ったことで、接し方も成長したかなあと感じました。交流においても実際に生の声を聞いたのでよか

った」と回答しているように、学びの質を生徒が問うていることから、目的を持って主体的に学習に向かう学習過程であったといえる。ただし、「修学旅行の発表が終り、グループに帰ったらすごく進んでいて、なぜこのような考えになったのかなどが分からず話し合いに話し合えなかった」と班での活動に対して目的意識を明確にできずに臨んでいた生徒もいたことから、個別の指導のあり方は課題として残ったといえる。

② 生徒が学習で学んだこと

この学習を通して学んだことや印象に残ったこととして生徒が挙げた「飯綱町は改善すればすごく魅力的な町になると思った」「町長さんの話で、この案はもっとこれをしてほしいんじゃないかなど参考になることがたくさんあり、町長さんすごいと改めて感じた。たかが中学生されど中学生という感じですがすごくよい案がたくさんあって大人を感じた」「今までの町のことなどについて深く考えたりしなかったけど、この学習で飯綱町の活性化をするために、自分たちができることなど町に対して深く考えることができた」等の回答から、地域社会を支えるのは、そこに暮らす住民なのだということを体験的に身につけてきた様子がうかがえる。同時に、「もし、来年の3年生がこの学習するとしたら、あなたはどんなことをアドバイスしますか」に対して、「自分の希望として、「～してほしい」ではなく、町の課題から考えて欲しい」「自分の足で聞きに行くことが大事」「飯綱町に貢献できるようなものを考えて欲しい」「テーマが決まったら様々な視点からたくさん案を出すと良い道が見つかるかもしれない」というように、机上のプラン立案に留めず、自分たちが行動できる実のある内容（プラン）を考えることの重要性にも気づいている。これらは、学習計画立案に際し、地域の関係者の直接の意見を取り入れたことの学習成果への現れと考えることができる。

また、クラスマッチ方式での提案発表に向けて追究してきたことから、「中学生議会で各クラス各班でそれぞれちがう意見が出てきてすごいと思った」「いろいろな考え方があったとすごく勉強になった」「自分のテーマに関係ないかな？と思うことでも調べてみるとつながったりする」という回答にみられるように、感覚として多様性の大切さを意識できるようになってきており、コミュニケーション能力の開発にもつながったといえる。

これら、生徒のアンケートから、本学習が目標とした「日常生活をはじめ、普段からお世話になっている町の方々に、実際に地域に出て地域のために役立つ活動をして、貢献することを通して、地域に感謝の気持ちを表し、町の活性化に寄与していく。また、地域の方々に町への要望や地域の実態を把握することを通して、グループの提言活動につなげていく」はおおむね達成されたといえ、各体験に対しての生徒の有効性を問うた結果からも、地域関係者の助言を設計・実践の節々で採り入れ、修正しながら OJT として教育課程を作り上げてきた成果といえる。

[体験活動に対する生徒の有効感]

「自分がためになったと思う順に1～8まで番号を書いてください」という問いでアンケートを実施。

※1判定を8点以下1点ずつ減で点数を算出し、平均値をポイントとして示した。

体験活動	ポイント
① 講演会「中学生議会を通して何を学ぶか？」(信大 小山先生のお話)	3.4
② 講演会「飯綱町の現状と今後の課題」(副町長 小澤さんのお話)	3.9
③ 地域貢献活動(体験学習デーズ午前)	4.6
④ いきいきサロン(体験学習デーズ午後)	4.7
⑤ パネルディスカッション「これからの町づくりを考える」	3.7
⑥ 追究(取材等)	5.5
⑦ 発表準備にかかわって	4.3
⑧ 中学生議会	6.0

なお、この学習で学んだことを日常生活にどのように活かすかのアンケートで、生徒は以下のことにも気づき、自分たちの日常生活を見直す機会にもなった。

- ・いろいろな所に目を向ける事だと思います。私には不便な場所が調べてみてたくさんあったからです。
- ・自分はこの飯綱町の飯綱中生であることを忘れないことを大切にしたいです。
追究でいきいきサロンに行ったとき、高齢者の方は私たち若者と話をしたいということが分かりました。
- ・なかなか中学生の人達はいいさつをしてくれないと言っていました。あいさつを目標としている飯中生が地域の方にあいさつをしないなんて絶対にいけないことだと思います。私は日常生活に活かす事は当たり前なのですが、地域の方にしっかりと挨拶をして、機会があればお話をしたい
- ・人に伝わるように話すこと、納得できるような作文の構成を考えること
- ・町に貢献できるようにがんばる
- ・人との協力、話を聞く事も大事だが足を運んで実際に見ることが大切
- ・ひとつのことをいろんな視点からみたり考えたりすること

(2) 保護者の感想等からの考察

[中学生議会を傍聴したA生の保護者の感想]

(私のふるさと飯綱町～15歳の提言～の学習について)

自分たちの生活している地域の良い所、問題点など見つめなおす良い機会になったと思います。「問題を解析し、課題を抽出して、改善策を立案し実行する」という作業は、社会に出ても役立つと思います。今回は貴重な学習ができたと思います。

(中学生議会について)

子供たちから見たら飯綱町の課題を議員の方々に直接聞いていただけ、有意義な議会だったと思います。若い人ならではの新鮮な意見が沢山あったと思います。町長さんも一つ一つの提言にきちんと答弁いただき、情報、考え方の共有ができたとも思います。

(生徒の様子について)

どうしたら、飯綱町が住み良い町になるか、真剣に取り組めていたと思います。

実社会との接点を重視した教育活動のあり方を探る教育課程を編成することを目的に、生徒たちの能動的な学びを目指して展開した中学生議会に向けての学習であった。

A生の保護者の感想にも見られるように、本実践は教室の中での生徒の学習では収まらず、地域とともに考え歩む教育実践になったといえる。特に、「社会に役立つ」学習として、保護者から評価されている点が、本実践の目的であった「実社会との接点」を重視し、地域に生活する人々一人ひとりが社会を支えていることを認識させることが達成されたと考える。

中学生議会を傍聴した別の保護者は、「自分たちの生まれ育ったふるさとを中学生の目線で考えることはとてもよいと思います。中学生でなければ見えてこない部分もあると思います。大人になっての大人目線になっての考えとはたぶん異なるものが多いと思うのでとても良かったです」と感想を述べているが、家庭や地域では意識されていない内容に焦点を当てる活動となり、地域にも地域を見直す波及効果をもたらしたといえる。

また、パネルディスカッションでのパネリストも「社会通念などにとらわれず、自由な発想でオリジナルのあるものでした。アンケートをとったり、実際に現場に足を運んだりと実践的に取り組んでいたことが良かったです。少し緊張した様子でしたが、『伝えよう』とする意欲、自分たちの提言に対する自身などが感じられました」とこの授業に関わった立場も含めての感想を寄せ、学習の目的が達せられていると評価している。

提案を傍聴した議員も、「ひとまえで自分たちの意見を述べる体験・自分のすんでいる町のことを考えてみる体験・テーマを選び考え、リサーチしまとめる作業の体験等によるすばらしいイベントと思います。能力を発見し、能力を引き出し、能力を高めるイベントと評価する。(発表した生徒について)是非、我が町のCMには、ナレーターをお願いしたい」という感想と提案一つ一つに対して意見を寄せているが、議員にとっても単

なる提案の発表会というレベルでなく、真剣に対応せざるを得ない状況を生徒たちの活動が醸し出したといえる。町議会も、この中学生議会について、「飯綱町議会だより 中学生議会特別号 一町の未来 中学生が提言―」)を発行して、すべての提案と町長の答弁の概要を掲載して、議長名で「15歳の提言を、私たち町議会がバトンを引き継ぎ、議論を発展させます」とした。また、参観した保護者の感想には「思った以上に子供たちの発表が素晴らしく、説得力もあり、よくまとめてあったと思います。今日の議会に課題で挙げたことを町はどのくらい真剣に考え実行に移してくださるか、これからの担っていく子供たちのために住みやすい町にして頂けたらと願います」というものもあり、中学生の学習活動が、実社会に反映されていくことが見えてくる実践となった。

冒頭示した「飯綱町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定が、高校生以上でなされたことから、中学生にとっては当初自分たちにとっては関係ないことと考えていた内容であったが、町に出て様々な人たちとの出会いで、町のかかえている課題の一つ一つが自分の生活とつながっていることが自覚でき、それら課題と関わることで、社会が変わっていく可能性があるということに気づくことができたといえる。

その意味で、当初は地域との連携と言いつつ、実際は学校再度の視点で教育実践を展開しようとしていた教員にとっても、地域という学校がおかれている実社会を教師が知ろうと生徒とともに学習を展開することで初めて、生徒と地域が一体となった「生きる力」を育むことにつながると体感できた教育実践になったといえ、地域の実態を重視したカリキュラムを開発するカリキュラム・マネジメントの研修にもなったといえる。

そして、この学習を通して、生徒たちは「自治とは、自分たちが生活する地域は、自分たちで主体的に運営していくことなんだ」、そのための議会なんだということを実体験を通して学べたといえる。

(2) 教職員の反省^{*18}からの考察

教員の反省で、「“15歳の提言”の学習は職員がカリキュラムを理解し、各教科の授業で題材と関連付けることで、社会をはじめとする9教科すべての学習を生かすことが可能で、知の総合化が図れると感じた」反面「各教科の学びを総合的な学習で活用できているのか、逆に、自分の教科活動が、総合的な学習の中に活きているのか」と関連性をどのように意識化させるかの課題も感じている。しかし、2年次の反省で、「講演会、職場体験学習など、単発のイベントでは学習効果は上がらない。生徒には学んだことの価値を“つなぐ力”は低い」と感じていた教師が、生徒とともにかつ教師の同僚性を生かした試行錯誤しながら運営した本実践が、当初ねらっていた総合的な学習と各教科学習とが融合した形で、実社会と接点を持った学習の展開の必然性を教員自らが体験的に学ぶことができたよい研修になったといえる。

また、「教師がどこまで手を入れて、どこまで生徒に任せるか」を課題として挙げているが、「3組は小山先生の指導が遅れて、その間に子どもたちが追究を進めていたので、提言を根本から直されたときは、それまでの時間が少しもったいなかったように感じた」と同様、カリキュラム・マネジメントとして、目的と目標は設定されているので、教師と生徒が一体になって学習を作っていくには、どのような支援が必要なのか、さらには教師がどこまで教材研究をして追究内容を構造的にとらえられているかということが、主体的な学びを導き出すのに大きく左右するということが改めて明らかにされた。

さらに、「クラスマッチ方式で、町行政、議会、生徒投票、大変と考えたが、結果は見事に違いが出てきており、有意義だった。立場によって感じ方、考え方の違いがある事、それが分かることが主権者教育なのだと感じた」という回答からは、これまでは既成の内容や方法論に立った学習を展開していくことが、教育課程と考えていたことがうかがえ、本実践により OJT が機能して、教師自らが地域の実態や生徒の実態をふまえて、目標に到達するようにどのような手立てを状況に応じて変更しながら考え実践していくことの大切さを、教師が学んだことがうかがえる。

[註]

- *1. 「1票の学び大切に」信濃毎日新聞 2015年6月18日(31面)
「合併の是非、自分なりに考えた」信濃毎日新聞 2016年1月3日(5面)
- *2. 本実践は、平成28年度文部科学省委託事業「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」(信州大学)の一環で展開されたものである。
- *3. 平成22年度科学研究費補助金「地域に残る口承文化の教材化にかかわる研究」(代表:小山茂喜)のアンケート調査によると、地域素材が授業で扱われていない傾向が見られ、その理由として、教師自らが生まれ育った場所でない学区域について、どのように知ればよいのかもわからないし、調べている時間もないという回答が多かった。
- *4. 2年次の総合的な学習のアンケート結果

- | |
|--|
| <p>1 いいづなタイム「これからの私～未来へのパスポートを持とう～」を学習しての満足度
満足…36.8%、やや満足…41.4%、普通…22%、やや不満足…0%、不満足…0%</p> <p>2 この学習が、あなた自身のためになったか？
たいへんためになった…31.0%、ためになった…58.6%、普通…9.2%、
ためにならなかった…1.1%</p> <p>3 この学習を振り返ってみて、あなたが印象に残っていること。
・1日ひたすら内職したこと、それでも400円にしかならないというときのショック
・ウラでは大変なことをたくさんやっているんだなあと思いました。
・仕事をして、できる自分を証明させること。
・自分の未来へのパスポートを親やゲストティーチャーに聞いてもらえたこと。</p> <p>4 体験学習で自分がためになったと思う順(表略)
①職場体験学習、②職場体験学習事前学習会、③パネルディスカッション「働く意義とは・・・」
④「ビジネスマナー講座」、⑤講演会「キャリア教育から学んで欲しいこと」、⑥職業調べ
⑦学習のまとめ「未来へのパスポート」の作成、⑧親子で進路を語る会</p> <p>5 この学習で、苦労した点
・初対面の人と話すこと、自分の考えをまとめること。
・始めはどんなことを調べていけば良いのか分からず、職場体験では自分が予想していたことを上回ってあせった。</p> |
|--|

6 新入生に「いづなタイムとは何ですか？」と聞かれたら、あなたはどんな学習だと説明しますか。

- ・未来の自分を考える学習
- ・自分の将来のための学習
- ・将来、自分のためになるかもしれないことを学習する時間。今の自分の時間を有効に使うための学習の時間。
- ・将来の自分のことを深く考え、実際に体験をする学習です。
- ・自分たちの住むこの町のことを知ったり、より自分を高めることができる学習だと思う。
- ・未来への問いを解決していく学習だったと思います。
- ・他の学校にはないもの
- ・飯綱町と もっと深くかかわりを持つための学習です。
- ・いづなの将来のことを話し合う時間
- ・自分のことについていろいろな体験をして、もっと詳しく知ることのできる学習
- ・自分や学年の人と向き合う時間
- ・自分たちのためになる時間
- ・自分が学べば相手にしてやれることも見つかると思う。
- ・今の自分と前の自分を見直す時間

7 もし、来年の2年生がこの学習するとしたら、あなたはどんなことをアドバイスしますか。

- ・周りに惑わされずに、自分の意志をもって、1つ1つのことに取り組んで欲しい。
- ・1人1人、1つ1つのお話をしっかりと聞いて、自分が今何をすればいいか、何ができるのかなど、考えることが大事だと思います。
- ・興味を持ったことや疑問に思ったことを自分から調べたり、やってみたりしたらいいと思う。
- ・最初にしっかりと自分の問いを決めておき、進んでわからないことがあったら質問をすること。
- ・コミュニケーションが大事になるので、たくさんの人と話したり、関わりをもちコミュニケーション能力をつけておいた方がいい。
- ・しっかりとメモをとって、学習を役立てて欲しい。
- ・自分から動く絶対がいいことがある。
- ・自分のよいところを探し、伸ばしてください。
- ・自分の考えをしっかりと持つ
- ・いろいろ大人の方に教えてもらったことをしっかりと自分の言葉にして、他の人に伝えていってほしいです。
- ・自分で自分のことを進めていく追究は楽しい。
- ・問いははっきりとさせ、とことん追究すること。
- ・パネルディスカッションはいろんな人がいろんな話が聞けるし、質問もできるので、しっかりと聞いた方がいいと思います。
- ・最初は不安かもしれないけど、やっていけばうまくやれる。
- ・自分にあった仕事を見つけることができるし、将来になって役立つことが絶対にあると思います。
- ・自分で調べたことと、今の自分を引き合わせて、これからどうするかを考えられるといいと思います。

8 1年生のときは「ふるさと飯綱町に学ぶ」、2年生では「これからの私～未来へのパスポートを持

とう〜」で、飯綱町の方々にお世話になり学習を進めました。来年度、いづなタイムで飯綱町にお礼のための活動をするとしたら、あなたはどんな活動をしますか？

- ・ゴミ拾い・ボランティア活動・あいさつ活動・草取り・手紙をかく・感謝状を出す
- ・みんなで何かをつくってプレゼントします
- ・ひまわりプロジェクト
- ・飯綱町のためだけのポスターを作りたい
- ・飯綱町のよいところをたくさん探す
- ・地域の方ともっと関わりを深められる活動がしたい
- ・農家の手伝い
- ・地域の方とふれあい意見を聞く・飯綱町がよりよくなる活動
- ・町おこし、村おこしに協力するためにいろいろな行事に参加させたい
- ・飯綱町に関連性のある食べ物を作ってわたす・飯綱町のPR新聞などを書く
- ・日頃から働いている人や農家の人たちに「おつかれさまです」などの声かけをしていく、活動をしたい。
- ・お世話になった方々をよんで、こんなことを感じたという意見やプレゼントを渡す
- ・2年間でかわったみんなの姿を見せたい、(学習をして) 地域の人との交流がしたい
- ・参観日などで知ったことなどを発表したい・この町がもっと住みやすくなるようなと。
- ・町民の方に実際にお話を聞いて、「今の飯綱町に必要なこと、問題点」をまとめ活動していきたい。
- ・飯綱町の中で、皆がよく使うようなところきれいにそうじする

9 まとめ

(1) 成果と課題

- 事前事後の学習会では、商工会の協力を得て学習を行なった。本校が体験学習にリストアップしていない事業所の方も来校していただいた。今後、さらに協力をお願いすることも可能だと考える。また、そのような活動が町おこしにもつながると考える。
- 今回、学習目標を考え、あえて小学校には職場体験学習をお願いしなかった。希望している生徒もいたが、生徒が体験できる学習内容を考えると、適切な対応だったと考える。食堂などは昼の時間だけで、1日の体験学習場所として位置づけるのは難しい事業所もある。今後、生徒数の減少もあるので、体験学習場所の吟味が必要である。
- 職場への連絡、当日のあいさつ、お礼など、たった1日の体験学習のためにさかれる仕事量は膨大で今後コミュニティースクールを利用するなど、簡潔にしていく必要がある。また、泊を伴う行事の見直しにもかかわる可能性があるが、日数を複数日にしていく必要がある。
- 学校地域の実態から考え、地元での職場体験学習は本校では適切だと考える。ただし、町が広いため、簡単にいけない事業所もあり、あらかじめ「その点をどう対応するか?」、学年で検討していく必要がある。
- 職場体験学習を市中音の裏に位置づける学校が他校でもあり、今年度は鳥居川消防署などが確保できなかった。町内に早めに実施日を知らせる必要がある。

(2) 見えてきた有効な手だて

- “人は人のかかわりで育つ”。しかし、現在の子どもたちはかかわっている大人は少なくなっています。したがって、総合的学習を通じて、大人とのかかわりを有意義にコーディネートしていく必要がある。この視点をカリキュラム作成の重点に据えたい。
- 講演会、職場体験学習など、単発のイベントでは学習効果は上がらない。生徒には学んだことの

価値を“つなぐ力”は低い。したがって、それぞれの学習活動や学んだ価値をつなげる教師の出が必要になる。価値をつなげる方法として、『『問い』や『テーマ』でつなぐ』、「教師の学習カードへの朱書き」、「生徒の感想をまとめた学級通信等の発行」など、が考えられる。

○職場体験学習が入ってくるので、共通体験と共通でない体験をしている生徒たちである。

したがって、お互いが学んだことで他とかかわらせることができる。そこから、お互いの学びを認め合い、自己肯定感を高める学習活動を大切にしたい。

○未来に希望や憧れをもち、今の生き方を考える学習にしていくためには、「今の自分」、「これからの自分」という視点をもたせることが有効である。そのために常に「学習カード」にその視点で自分を見返しさせる。

*5. 当初の計画

1 題材名 「私のふるさと飯綱町～15歳の提言～」

2 生徒の実態と題材の価値

(1) 生徒の実態と題材設定の理由(略)

(2) 題材の価値

① 飯綱町民として、よりよい町づくりに参画するための意欲を育むことができる

題材の展開の中で、生徒は飯綱町について単に知識習得ではなく、豊かな自然、地域の伝統文化、人びとと触れ合いなかから、人と自然、人と人との共存や多様な生き方を学び、自らを見つめ直し、持続可能な町づくりを考えることを通して、コミュニティ機能の低下が指摘される中、よりよい町づくりに参画するための意欲をはぐくむことができる。

② 社会に参加し、自ら考え、自ら判断する自立した主権者をはぐくむことができる

昨今、政治的無関心の増加や若者の問題行動の増加等が問題とされている。しかし、その一方で選挙権の年齢が18歳に引き下げる改正公職選挙法が可決されており、生徒たちに社会の構成員としての市民性を育成することを求められている。

そこで、本題材を通して、生徒が日々の生活でつながりの深い地方公共団体である町の意思を決定する議決機関である町議会の仕組みを理解し、実際に議会のあり方を自分たちで体現し、発信することを通して、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する自立した主権者をはぐくむことができると考える。

③ 中学校を卒業する3年生にとって、自立への礎になる学びの場とすることができる

本校では学級目標に「自立」、「友愛」、「剛健」を学校教育目標に掲げている。「友愛」については泊を伴う行事を「宿泊体験学習」として、人間関係づくりの中核に据えている。また、「剛健」に関しては13の部活動で日々心身を鍛えており、その中核的な活動になっている。しかし、自立に向けて教育活動を日々積み上げてきているが、社会的な自立を願った核になる学習活動はなかったのではないかと思う。

そこで、本題材の学習を通して、地域社会への参加を図ると共に、さらには生徒会活動等と関連付けることで、9年間の義務教育を卒業する3年生にとって、社会的な自立への礎になる題材になり、本校の教育課程の中で「自立」を支える中核的な学習活動の場になると考える。

3 題材の目標

- ① 町の現状と課題を知り、持続可能な町づくりのために必要なことを自己課題をとして設定することができる。(課題設定能力)
- ② 調査活動、体験的な学習、地域の方や友達とのかかわりを通して、自己課題を追究することができる。(課題追究能力、情報処理能力、コミュニケーション能力、自己評価力)
- ③ 自分の追究を提言までにまとめ、模擬議会を通して発信することができる。(表現力)
- ④ 町の現状や課題に関心を持ち、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する自立した主権者になる意欲を持つことができる。(関心・意欲)

4 題材の展開 (全時間時間)

段階	時	内 容	月	形態
町の 問題 を 知 り、 自 己 課 題 を 設 定 す る	1	○3年総合的学習「私のふるさと飯綱町～15歳の提言～」のオリエンテーションを行う。(総合的学習係) ・題材についての説明・題材の流れ・追究のモデルの提示 ・学習を通しての「なりたい自分」の設定	5	学年
	2	○講演会「ESDとはどんな学習か？」を実施する ・講師：小山茂喜先生(信州大学) ・ESDとはどんな学習か？さらにはその学習を通して学んで欲しいこと、今後の日本が抱える問題点について提言していただく。	5	学年
自 己 課 題 を 設 定 す る	3	○講演会「飯綱町の現状と今後の課題」 ・講師：(地元飯綱町の方)(パネルディスカッション形式がよいか?)	6	学年
	4	・少子高齢化が大きな問題となる、現在の日本の社会の中で、日本や飯綱町自体が抱える問題を挙げていただき、自己課題設定のための参考にしていく。		
	5 6	○自己課題の設定 次と関係する内容が課題と挙がるだろう。 ・少子高齢化 ・福祉 ・小学校の合併 ・税金 ・飯綱町のスポーツ活動 ・飯綱町の農業、観光 ・選挙権18歳 ・飯綱町と他の地域とのつながり (*学級内で課題ごとのグループ、または、講座分け)	6	学級
追	7	○自己課題の追究	7	学級
	11	・図書館、インターネット、取材等を行い。自己課題を追究していく。		
	11	○議会のしくみ	7	学級

	1 2	・町議会について学習する（役割、仕組み、審議の仕方）		
究	1 3	○地域貢献活動	7	学級
	～ 1 4	・学級単位または講座単位で町内の施設に出かけ、地域のためになる体験活動や取材活動を行う。		
	1 5	○飯綱町を語る会	7	学級
	～ 1 6	・地域の方に学校に来校していただき、自己課題について大人に質問を すると共に、飯綱町の将来像について語り合う。		
ま と め	1 7 ～ 2 0	○模擬議会にむけて追究をまとめる。	9	学級
発	2 1	○学級学習発表会に向けての事前準備	11	学級
	2 2	○模擬議会（10月の市中音前後、11月の参観日か？）	11	学年
	2 3			
信	2 4	○学習のまとめ ・題材を振り返ってのアンケート ・題材の評価	11	学級

*6 前掲3

*7 地域貢献活動について

	①農業体験	②環境体験	③福祉体験 I（社協管轄）	④福祉体験 II（社協管轄外）	⑤老人との交流	⑥保育園体験
目的	農家に訪問し、農業体験をし、地域に貢献していくとともに、飯綱町の農業に関わる課題とこれからの農業のあり方について考える。	ゴミ拾い活動を行い、町内美化に努めることを通して、ゴミ処理について関心を高め、環境に関わる課題とこれからの対応について考える。	福祉施設に訪問し、福祉体験を経験することを通して、町の抱える福祉に関わる課題とこれからの飯綱町の福祉のあり方について考える。	福祉施設に訪問し、福祉体験を経験することを通して、町の抱える福祉に関わる課題とこれからの飯綱町の福祉のあり方について考える。	飯綱町の一人暮らしなどの高齢者の交流を通して、町の抱える高齢者福祉に関わる課題とこれからの飯綱町の高齢者福祉のあり方について考える。	町の保育施設に訪問し、保育体験を経験することを通して、飯綱町の保育に関わる課題とこれからの保育のあり方について考える。
活動内容	○インタビュー ○各農家での農業体験	○インタビュー ○ゴミ拾い活動 ○分別活動	○インタビュー（事業所の方、利用者） ○福祉体験	○インタビュー（事業所の方、利用者） ○福祉体験	○高齢者へのインタビュー ○高齢者との交流	○保育師へのインタビュー ○保育体験
場所等	町内の各農家 産業観光課	・学校周辺 住民環境係	福祉施設 社協	福祉施設 事業所ごと	町民会館 社協	保育園 保育園ごと
時間	8：00～11：30 または、1日	8：00～11：30	8：00～11：30 または、1日	8：00～11：30 または、1日	8：00～11：30	8：00～11：30 または、1日

*8. 学年会で考えた「町のかかえている課題」

- ①人口の減少
飯綱町の人口は、自然減、社会減の現状にある
子どもを増やすには、子育てしやすい環境をつくるには
若者が住みたくなる、暮らしやすい町にするには
移住者を増やすには
- ②農業のブランド化
農業のブランド化（飯綱町のりんごをどのように売り出していくか）が進んでいない
農業者の高齢化が進んでいる、今後、荒廃地が拡大する可能性がある
新規就農者を確保するには
農業所得を向上させていくには
- ③観光客の減
観光客が減少している
飯綱町に観光客を増やすにはどうしたら良いか
都会の人が飯綱町の人と交流する交流人口を増やすには
農業を生かした観光を振興するためには
- ④高齢者の幸福
高齢者が増加している
高齢者の誰もが活躍できる社会をつくるには
高齢者が生きがいを持ち健康で暮らせる社会をつくるには
- ⑤町の認知度
飯綱町が発足して10年になるが町の認知度が低い
飯綱町の名前を全国の人に知ってもらうには
- ⑥美しい意観を守る
主要道のごみのポイ捨てがなかなか減らない
ごみのばい捨てを無くすためには
美しい里山風景を守っていくには
- ⑦誰もが利用しやすい公共交通
- ⑧ごみの減量
- ⑨自然エネルギーの活用
- ⑩買い物弱者

*9（中央教育審議会答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」（平成15年10月）

*10 学習シート

3 学年 いよいよGタイム「私たちのふるさと飯綱町～15歳の夏まで～」
 学びエンターテインメント・学習カード 編 3

※ 学びエンターテインメントを参照して、次の問いについて書きましょう。

1 学びエンターテインメントに登場しての経験

2 「学び自分」今の自分を決める元は何かを尋ねよう！こんな事までしていますか？

○ 「過去」経験が、成長を促すのと同じように、成長まで自動的に経験も蓄積することができているか？

5	4	3	2	1
とてもある	ややある	平均	やや少ない	とても少ない

【 理由 】

○ 「将来」将来性、自分が進化したことを周りの友達に知らせるようになり始めることができているか？

5	4	3	2	1
とてもある	ややある	平均	やや少ない	とても少ない

【 理由 】

○ 「関心・興味」興味関心が強くなるから、授業の姿勢が積極的に変換し、これからの勉強づくりに貢献しようとする意識があるか？

5	4	3	2	1
ある	ややある	平均	ややない	ない

【 理由 】

3 「私たちの町」学びエンターテインメントを制作して、この学習の学びの成果や「学びたい自分」を伝える。

4 「私たちの町」飯綱町～15歳の夏まで～」では、いよいよ飯綱町の学習を体験することができま
 ず、どの体験学習に興味を持ちましたか？興味をもった学習について書きましょう。
 ※ 実施する
 ・ 講演会「中学生議会で通して、何を学ぶか」（飯綱町立学芸館飯綱町公民館を会場とする）
 ・ 講演会「飯綱町の歴史と未来の未来」（飯綱町公民館）
 ・ 飯綱町歴史館
 ・ パネルディスカッション
 ・ 中学生議会（10月28日（土））

【 理由 】

5 10月27日（土）イオン飯綱店（飯綱町立学芸館併設）を会場として、講演会「中学生議会で通して、何を学ぶか」を行います。当日は朝7時から受付を行います。

6 学習の体験や成果での学習を振り返り、今後の学習を通して、飯綱町のことでんなことを感じて
 ほしい学びの学びを伝えよう。

*11 講演内容のスライドの一部



私たちのふるさと
いいづな
を
知り尽くすことから

「ふるさと」
— 飯綱町の歴史を
知るための一冊
— 飯綱町を
いっしょに愛する




5
地域の歴史を知るための
学びの場

非日常性 私たちのふるさと
いいづな
を知り尽くすと

日常性

議会（町）への提案
中学生議会で通して、何を学ぶか
私は何をすべきか

遊び 創造 文化



な-い-と
な-い-と
な-い-と
海士町

飯綱町で生活する人にとって
生きがいとは何か
共生とは何か
を考える

中学生議会で通して、何を学ぶか

飯綱町をフィールドとして
飯綱町のことについて調べたり
さまざまなところで体験活動をしたり
調べたことや体験したことをもとに議論することで

飯綱町住民企画提案制度

*12 学習一カード



君はどう考える？ 一飯綱町の今をー

飯綱町の	強 み	弱 み
小さな子どもたちにとって		
小学生にとって		
中学生にとって		
高校生にとって		
若者にとって		
子育て世代の人にとって		
熟年世代の人にとって		
高齢者にとって		

*13 講演会についての新聞記事

「飯綱中3年生の主権者教育 2回目は小沢副町長が講演 農業振興・小学校跡地…提言へ考え深める」
2016（平成28）年6月18日（土）信濃毎日新聞朝刊

飯綱町の飯綱中学校で17日、3年生が地域の課題や政治について学ぶ学習活動「私のふるさと飯綱町 15歳の提言」の第2回が開かれた。総務省から出向している小沢勇人副町長が、国の「地方創生」に向けた町の施策や意義を講演。生徒たちは、町の予算や産業などについて質問し、今秋の町への政策提言に向けて考えを深めた。

小沢副町長は日本の人口減少などを説明した上で、「地域に恩返しをしたいという思いが『地方創生』につながる」と話した。町の総合戦略について、農業振興や子育て支援政策などが「国やマスコミにも注目されている」とした。

講演を受け、小池永輝さん（14）は「町のリンゴをもっと海外に売るには何が必要か」と質問。小沢副町長は「フランスに売るのか南米に売るのか、売り先に合わせた戦略を考えることが大切。販売戦略に詳しい人と農家さんたちとの勉強会を開いていきたい」と応じた。

吉沢透真さん（14）は、統合予定の町三水第二小学校の跡地利用を質問した。「副町長の『学校を町の文化の一つとして考えている』という言葉聞いて安心した。僕たちも建物を生かしていく方法を考えていきたい」と話した。

*14 地域貢献活動についての新聞記事

「飯綱中3年生100人 住民と交流し地域課題探る 主権者教育の一環」

2016（平成28）年7月12日（火）信濃毎日新聞朝刊

上水内郡飯綱町の飯綱中学校3年生約100人は11日、住民との触れ合いを通じて地域の課題について考える活動をした。選挙権年齢の「18歳以上」への引き下げを踏まえ、同校が本年度、3年生を対象に始めた主権者教育の一環。地元のお年寄りとの交流や農家での農業体験、中学校周辺のごみ拾いを通じて住民に町の課題を尋ねた。今秋に開く模擬議会でより住民目線に立った政策を提言する。

これまで2回の活動は、町の概要に関する座学が中心だった。この日、高齢化が進む同町の福井団地内のコミュニティーセンターでは、生徒18人がお年寄りを囲み、高齢化への不安や、買い物への交通手段について聞いた。

飯田真凜（まりん）さん（15）が「生きがいは何ですか」と質問すると、「趣味が生きがいで、触れ合える場所が大切」との意見が出た。飯田さんは廃校になる町内の小学校の跡地利用に関心があり、「（活用する上で）とても参考になった」と話した。

生徒らは12日、町会議長らとまちづくりをテーマに討論し、13日はグループごとに学んだことを話し合う。10日投開票の参院選について、飯田さんは「住民の声を反映した政策が出るのが重要だと思う」と話し、将来の投票へ関心を高めていた。

*15 パルディスカッションの様子が掲載された新聞記事

「飯綱中3年生、町の未来を問う 副町長らとパネル討論」

2016（平成28）年7月13日（水）信濃毎日新聞

飯綱町の飯綱中学校は12日、副町長や町会議長らが町や日本の未来について話すパネル討論を開いた。同校が3年生約100人を対象に本年度始めた主権者教育の一環。生徒たちは、子育て支援や産業振興、交通政策などの方向性について質問し、地域活性化策に向けて考えを深めた。

前半は、高齢化する地域社会や働き方などの将来像について副町長ら登壇者の意見を聞き、後半は生徒たちが次々に質問。住みやすいまちづくりに関心があるという荒井隆斗さん（14）は「10年後の町で子育てする人たちのために、どんな環境を整える必要があると思いますか」と尋ね、寺島渉議長は「給食費の無料化など、思い切った施策が必要」と答えた。

総務省の人材支援制度で昨年、同省から町に派遣された小沢勇人副町長は「働き方の見直しが必要」と指摘。インターネットを使って場所にとらわれずに働くテレワークを例に挙げ、「皆さんには、新しいスキル（技能）を身に付けてほしい」と語り掛けた。

3年生の各クラスは現在、廃校になる地元の小学校の跡地利用など六つのテーマについてグループごとに議論。秋に開く模擬議会で町に政策提言する計画で、13日も各グループが調査を深める。

*16 ワークシート(サンプル)

組 員 氏 名 _____

I-① 表のテーマを書こう。

飯綱町の強みは何か、飯綱町の強みにひかれて人々が訪れる町づくり

I-② テーマを選んだ理由を3つ書こう。(自分の考えだけでなく、友だちの意見でもよい) (理由の順位) ↓

飯綱町に観光で来る人が少ない (2)

飯綱町には、住んでいる人が気づかない自然などのよい素材がある。 (1)

住民にとって生きがいがある町にしたい。 (3)

II-① 調査活動で一番心に残っていることを書こう。

II-② 一番心に残った理由を3つ書こう。 (出したい順位) ↓

II-③ ①で考えたり思ったりしたことを書こう。

II-④ 調査活動で二番目に心に残っていることを書こう。

II-⑤ 二番目に心に残った理由を3つ書こう。 (出したい順位) ↓

II-⑥ ④で考えたり思ったりしたことを書こう。

II-⑦ 調査活動で三番目に心に残っていることを書こう。

II-⑧ 三番目に心に残った理由を3つ書こう。 (出したい順位) ↓

II-⑨ ⑦で考えたり思ったりしたことを書こう。

Ⅲ 目まで書いたことをもとに、何が飯綱町の課題であるのかをまとめよう

① 私が考えた課題は

飯綱町に住んでいるあたり前と考え、活用でき
 ざるものに気づいていないことが多いです。

② 課題を解決するためのキーワード（必要なこと）を三つ考えて書こう。

(優先順位)

人材力	<input type="radio"/>
自然	<input checked="" type="radio"/>
発想力	<input type="radio"/>

③ 最優先のキーワードが必要な理由を考えてみましょう。

なぜなら 飯綱町は自然豊かで、今の世の中は自然志向だから
 それに 自然を生かした文化も飯綱町にはあるから
 また 生活しているとあたり前と知っていることが、他地域の人たちには新鮮に感じられるから
 だからです。

④ 二番目のキーワードが必要な理由を考えてみましょう。

なぜなら
 それに
 また
 だからです。

⑤ 三番目のキーワードが必要な理由を考えてみましょう。

なぜなら
 それに
 また
 だからです。

Ⅳ-① 私（班）が提案する内容を考えて書こう。

私たちの提案は
 農 業 民 泊 を 取 り 入 れ た 自 然 体 験 と 文 化 活 動 体 験
 です。

Ⅳ-② 提案が採用された際の成果を三つ考えて書こう。

(達成可能性順位)

衰退している農業を再生させることができる。	<input type="radio"/>
地域住民が地域に自信を持って生活できるようになる。	<input type="radio"/>
町以外の人が訪れてくれるようになる。	<input type="radio"/>

*17 生徒の授業後のアンケート

- 1 いいつなタイム「私のふるさと飯綱町～15歳の提言～」を学習しての満足度。また、その理由。
5…34名、4…37名、3…17名、2…5名、1…1名
(理由)
- 1を選択
- ・修学旅行の発表が終り、グループに帰ったらすぐ進んでいて、なぜこのような考えになったのかなどが分からず話し合いで話し合えなかった。
- 2を選択
- ・うまく発表できなかったから。
- 4を選択
- ・自分たちの考えが発表に向けて形になっていったこと。長期にかけて班で1つのことについて学習できたことは良かった。もう少し細かく考えてみたかった。
 - ・追究していく中で、最初の頃にはおもいもつかなかったような考えが生まれ、班の人と協力して、しっかり定まった提言をつくることができた。少し課題が残ったので、少し不満。
- 2 この学習があなた自身の学力の高まりや、自己の成長につながったと感じるか？また、その理由。
5…18名、4…51名、3…20名、2…4名、1…1名
(理由)
- 5の立場で
- ・自分だけでなく、班でやったことでクラスメイトとたくさん関わりながら学習することができて良かったし、地域の方や高齢者の方と話をするときには気を使ったことで、接し方も成長したかなあと感じました。交流においても実際に生の声を聞いたのでよかったです。
- 3 今後、この学習を振り返ってみて、あなたが学んだこと、考えたこと、印象に残っていることをできるだけたくさん書いてください。
- ・役場の方にいろいろ話を聞いたこと。
 - ・飯綱町は改善すればすごく魅力的な町になると思った。町長さんの話で、この案はもっとこれをしたらいいいんじゃないかなど参考になることがたくさんあり、町長さんすごいと改めて感じた。たかが中学生されど中学生という感じですがよくよい案がたくさんあって大人を感じた。
 - ・今までの町のことなどについて深く考えたりしなかったけど、この学習で飯綱町の活性化をするために、自分たちができることなど町に対して深く考えることができた。
 - ・中学生議会で各クラス各班でそれぞれちがう意見が出てきてすごいと思った。いろいろな考え方があったとすごく勉強になった。
- 4 体験的な学習がありました。自分がためになったと思う順(順位は略)
(理由)
- ・地域の中に入って深く考える機会はなかなかないと思うので、地域貢献活動やいきいきサロンに参加して話を聞いたり、自分で考えて行動できたことはよかったと思うから。
 - ・中学生議会では緊張していい発表ができなかったです。
 - ・講演会①は学習を通した後ではあまり意味を感じられなかったのでは

- 5 この学習をさらに続けるとしたら、あなたはどんなテーマを追究しますか？
- ・学校給食の無償化
 - ・子どもの生活環境について
 - ・たくさんの年代の方の飯綱町への希望をきく。
 - ・持続可能な町づくりについて
 - ・何年も空いている家や土地を店などに変える。
- 6 今回の学習を生かして、飯綱中学校や飯綱中学校生徒会はどんなことに取り組んでいったらよいと思いますか？
- ・高齢者との交流の場を増やしていった方がいいと思います。その場について一緒に遊んだりお話をするのはとても楽しかったので、みんなに体験して欲しいと思います。
 - ・もっと町と密着した行事が必要だと思う。
 - ・今回の班ごとの発表準備と同じく、みんなで協力していきたいです。
 - ・生徒会でなどでもう一度、飯綱町の現状を見直す機会をつくるべきだと思う。
 - ・地域との関係を築いていくことができる活動を行えるとよいと思う。
 - ・地域貢献活動の日といきいきサロンの日と一緒にして、いきいきサロンの日と一緒にして、いきいきサロンに参加する。
 - ・地域の人も、もっと関わりがつけられる企画とかがあったらいいと思う。
 - ・被災者や貧しい国の子供達への募金や協力を行っていることは良いことだけど、自分たちの住む町について考える機会があってもよいと思う。
 - ・町の将来について全員が考えていくこと。
 - ・学年ごとのいきいきサロンの参加。
 - ・高齢者とのふれあいが必要だと思います。
 - ・地域ともっとふれあう
 - ・いきいきサロンに参加することなど、とても大切だと思う。
 - ・飯綱中と町の信頼をもっと深めていく取り組みをやっていったらよいと思います。
 - ・もっとたくさん町の人と交流をして町の方の意見を聞いた方がいいと思った。
 - ・町の方との交流の機会をもっと増やす取り組みをしたらよいと思います。
 - ・内にももるのではなく、もっと外に目を向け、いろいろな立場の人と意見を交わすのが大事。
 - ・町長さんを驚かせる提言をしてください。
- 7 もし、来年の3年生がこの学習するとしたら、あなたはどんなことをアドバイスしますか。
- ・自分の希望として、「～してほしい」ではなく、町の課題から考えて欲しいです。
 - ・自分の足で聞きに行くことが大事。
 - ・飯綱町に貢献できるようなものを考えて欲しい。
 - ・テーマが決まったら様々な視点からたくさんの案を出すと良い道が見つかるかもしれない。
 - ・追究は早く終らせて、発表の準備をした方がいい。
 - ・テーマが決まったら、様々な視点からたくさんの案を出そうと良い道が見つかるかもしれない。
 - ・絶対最初はいい感じにならないけれど最後にはいい感じになります。
 - ・想像力を豊にやってください。とにかく飯綱町の事を考えてやって欲しい。
 - ・町内でやるイベントに参加したり、ボランティアとかにも参加したりしたいです。
 - ・自分なりの意見を持って取り組もう。
 - ・結構はやい段階からインタビューとかアンケートとか取った方がいいと思います。

- ・町の声がたくさん聞いた方がいいと思う。
- ・自分のテーマに関係ないかな？と思うことでも調べてみるとつながったりと思うので、ぜひいろんなことを調べた方がいいと思います。
- ・人と関わることが苦手な人でも、人と関わるのが楽しくなります。
- ・まず自分が町についてよく知ることが必要です。普段の生活の中で当たり前だと感じていることがこの町の特色かもしれないから。
- ・町を変えられるかもしれません。

8 この学習で学んだことで、日常生活に生かすことはどんなことですか？

- ・いろいろな所に目を向ける事だと思います。私には不便な場所が調べてみてたくさん分かったからです。あとは自分はこの飯綱町の飯綱中生であることを忘れないことを大切にしたいです。
- ・飯綱町に生きる大切さ。
- ・自分の意見をまとめてみんなに発表したり、書いたりすること。
- ・お年寄りとの時間を大切にすること。
- ・パワーポイントを使えるようになった。自ら積極的に行動できるようになった。
- ・投票をしたりする時はしっかり考えて決めたいです。
- ・飯綱町の取組などをしっかりとチェックしていきたい。
- ・投票したりする時はしっかり考えて決めたいです。
- ・インターネットの使い方や発表をどのように進めるかなどのことを学んで、活かしていきたいなあと思った。
- ・困っている高齢者や子供たちがいたら手伝ったり、町のことをもっと知れるようにしたい。
- ・私たちの追究は若者と高齢者の交流だったのですが、追究でいきいきサロンに行ったとき、高齢者の方は私たち若者と話をしたいということが分かりました。また、なかなか中学生の人達はいさつをしてくれないと言っていました。あいさつを目標としている飯中生が地域の方にあいさつをしないなんて絶対にいけないことだと思います。私は日常生活に生かす事は当たり前なのですが、地域の方にしっかりと挨拶をして、機会があればお話をしたいです。
- ・高齢者との交流を増やす。
- ・なるべく飯綱町の施設を利用すること。
- ・人に伝わるように話すこと、納得できるような作文の構成を考えること。
- ・スライド作成、ビデオの人集め、取材の仕方、電話での話し方
- ・町に貢献できるようにがんばる。
- ・いろんな世代の人と関わりをもつ
- ・人との協力、話を聞く事も大事だが足を運んで実際に見る事が大切。
- ・ひとつのことをいろんな視点からみたり考えたりすること
- ・飯綱町のよさを全国に発信していく。

*18 教職員に対する反省アンケート

1 3年生の総合的な学習の時間に主権者教育「私のふるさと飯綱町～15歳の提言～」を位置づけたこと

○目標との関係で

- ・義務教育の最終年度、生徒の「自立」を志向した学習を考えたときに、より社会に開かれた形の学びの場が必要である。福祉体験や社会貢献の体験的な学習をベースに町に提言していく学習は3年生の生徒に大きな成長につながる学びの場となった。
- ・町が抱えるいろいろな課題を知ることができてとても良かった。いきいきサロン参加でも様々な課題が見つかり、将来のことを考えると人ごとではないという気持ちが生徒の中に生まれたようだ。また、パネルディスカッションでも様々なアイデアをいただいて良かった。
- ・選挙権が18歳からになった現在、社会に関心を持ち、自ら関わろうとする意識を高めるためには、有効だったと思う。

○学習過程について

- ・3組は小山先生の指導が遅れて、その間に子どもたちが追究を進めていたので、提言を根本から直されたときは、それまでの時間が少しもったいなかったように感じた。
- ・講演会や体験を通して少しずつ町の課題が分かってきて、提案が住民の声を代表しているようなものになっていった。
- ・普段から、ふるさと飯綱町に興味・関心を持たせるために、1年生の時から議会のことについて学習する機会があればよかったと思う。

○教科学習との関係について

- ・「私のふるさと」と絡めて、音楽科では、学年合唱に「郷愁歌」を位置づけ、総合的な学習の時間の体験学習時、校内音楽会、連合音楽会で歌声を披露した。
- ・進度の関係で絡めることが出来なかったが、社会科の主権者教育と関連させて学習を進めることはできると感じた。
- ・本来、関係づけて学習するのが理想ですが、あまり関連づいてなかったように思う。

2 本題の展開について

○授業の展開でよかったと思えること

- ・上記同様、講演会、パネルディスカッション、体験学習など様々な体験から課題をつかみ、追究できたことがよかった。
- ・あらゆる角度から地域をとらえ、地域と係わる中で、課題を据え、さらに町長や議会と直接意見交換できる展開により自分自身が「町の一員である」ことを認識することにつながったのではないかと。当初、「飯綱町＝ふるさと」ととらえがたかった生徒も、後半では、ふるさとの「ために」何ができるのかを考え、提言をまとめる姿が見られた。
- ・学習を進めていく中で、生徒が飯綱町をよくしたいという思いが芽生えていっていた。自分たちのふるさとに対する愛着が強まったように感じられた。

○授業を展開するに当たって難しいと感じたこと

- ・体験的な学習は町等のアドバイスをもらい設定してきたが、生徒の提言が高齢者を意識した提言が多かった。生徒が自分の保護者に取材したり、職場体験学習での経験をつなげることですむことで

もあるが、中学生議会参加の保護者の数も少ないことも考え、参観日等を利用して保護者など、現役世代と話す場を設定すべきだったと考える。

- ・大きな流れはよかったと思う。発信することを大切に考えてきたので、全班を発表させたが、時間が中学生議会では町長の思いもあり、大きくオーバーしてしまった。今後、生徒の人数が減少してくるので、自然に改善されると思うが、中間発表で班をしぼる必要もあったかとも思う。
- ・教師がどこまで手を入れて、どこまで生徒に任せるか。今回は必要な情報で生徒が知らないようなことは伝える程度で、あとは生徒の考え中心に提言をまとめさせた。
- ・間に文化祭、テストなど入り、集中して一気にできないところ。
- ・日程的な問題（総合の授業のというよりは、学校祭の多種多様な内容および準備と同時進行しなければならなかったこと）
- ・調査時間、まとめの時間の確保の難しさ。

3 体験的な学習について

(1) 講演会「中学生議会を通して何を学ぶか？」(信大 小山先生のお話)

- ・学習する意義が伝わる内容だったと思う。
- ・来年もしやるならば、ここは今年度の生徒の追究モデルの発表でもよい。
- ・学習の目的が明確になったと思う。

(2) 「講演会「飯綱町の現状と今後の課題」(副町長 小澤さんのお話)

- ・今の日本の状況を踏まえた内容であった。とても楽しく有意義な話であったが、やや生徒には難しかったか(？)。でも、町の状況からいっても、最適人の人選であった。
- ・中学生には難しい話もあったかもしれないが、副町長からお話を聞いたことで、実際に町の行政が目指す飯綱町のビジョンを知ることができ、学習の材料になった。

(3) 地域貢献活動(体験学習デーズ午前)

- ・(3)、(4) がいっしょで準備的な面、生徒の移動の面でたいへんであった。しかし、メリハリがあっただけよかったとも思える。
- ・農業体験、福祉体験といった体験を通して、飯綱町の現状を知ることが出来たと感じられる。
- ・地域の方の思いを聞くことができ、生徒の学習を進める上で非常に役立っていた。

(4) いきいきサロン(体験学習デーズ午後)

- ・今後の町や生徒の状況を考えると小学生高学年段階からここの交流を位置づけるべきではないかと考える。地区生徒会の位置づけともに検討したいところである。

(5) パネルディスカッション「これからの町づくりを考える」

- ・午後、進路で午前中がこの会であった。(2) があってのこの学習なので生徒からの質問も出やすく、課題を模索させるにはよい学習であった。
- ・様々な分野の専門家の方の話聞いたことはよかった。

(6) 追究(取材等)

- ・課題設定や追究を深めるための学習方法を生徒に持たせるための手立てを、プリントを配布し手を入れてきたが、さらに考えていく必要がある。
- ・積極的に取材に出かけたり、資料を集めたりする生徒が多かった。

(7) 発表準備にかかわって

- ・タブレットの活用が活きた。自分でワープロに発表原稿を打ってきた生徒もおり、追究の早い段階から学習経過を記録させるためにも、タブレットは持たせたい。
- ・校祭もあり、準備の時間を確保するのが大変だった。準備していく中で、情報が足りず、調査する班もあり、分かりやすい提言を作るために努力していた。

(8) 中学生議会

- ・町の活性化につながることも考え、学校・町を含め、すべて関係者、団体がWINWINになる学びの場である。今後とも町と協働しながら実施をしていただきたい。
- ・地域を知り(講演)、地域に足を運び(体験活動)、地域のために考え(追及・取材)、そして発信する(議会)という流れが、主権者としての意識の高揚にもつながったのではないかと。
- ・実際に町長が答弁してくれたことがよかった。

4 全体の運営に関して

- ・縦割り行政等、初年度でたいへんな面があったが、今後は省力を考えながら実践する必要がある。
- ・町の協力がたくさんあってとても良かったです。生徒の相談やインタビューにもしっかりと対応していただいて良かったです。
- ・他学年が今後も引き継いでいけるように、もう少し連携が取ればよかったと思う。3学年のやっていることに対する理解が薄かったように思う。また、1、2年生が本番を参観する機会があり、自分たちの学習につなげる機会になればよかった。

5 その他、感想

○先生自身が学べたこと

- ・総合的な学習の意義は授業で学習したことが実際の日々の生活で活用できないこと、さらにそれに起因する「学びからの逃避」の改善のすることが根底にあると考える。“15歳の提言”の学習は職員がカリキュラムを理解し、各教科の授業で題材と関連付けることで、社会をはじめとする9教科すべての学習を生かすことが可能で、知の総合化が図れると感じた。今後、この学習を職員で共通理解していきたい。
- ・学習の流れや、体験学習、インタビューなどの大切さが分かった。特にいきいきサロンの参加はとても良かった。町の方も喜んでくれていて、良い活動だった。
- ・講演会等々、非常に興味深い内容でした。

○先生自身が課題として感じたこと

- ・各教科の学びを総合的な学習で活用できているのか、逆に、自分の教科活動が、総合的な学習の中に活かしているのか。(教科を超えた学びのスパイラル)

○生徒の学びの姿を見て感じたこと

- ・追究課題を設定するまでは、ただやらせていたけれど、設定できてからは協力・分担して追究を進めることができていた。町・人のことを考えて中学生なりの提案をしようと相談している姿が良かった。
- ・たくさんのiPad、ルーター、タブレットの活用により、場所(コンピュータ室)に縛られることなく活動が展開した。取材活動、いきいきサロンでの説明、提言のプレゼン作り等々、足を運び学んだことを蓄積したり、その情報を取捨選択し、提言につなげていく、一つの道具としての有効性を多

く感じた。

- ・非常に苦勞をしていたと思うが、調査活動をしているうちに本当に飯網町を住みやすい町にしているように思う思いが伝わってきた。

○1年生からの学びの系統性について感じたこと

- ・3年生では職場体験をしたいという生徒もいたが、中学生議会をやってみて、これも自分たちの町のことを考えられたので、良い学習になり楽しかったという感想があった。

○その他

- ・クラスマッチ方式で、町行政、議会、生徒投票、たいへんと考えたが、結果は見事に違いが出てきており、有意義だった。立場によって感じ方、考え方の違いがある事、それが分かることが主権者教育なのだと感じた。
- ・多くの方々の協力を得て、中学生議会が実施できたことが本当にありがたかったです。
- ・題材の扱い方によっては町行政の方向に偏ったり、また逆に批判的になりすぎることも考えられる。外部との関係は学校の立場（生徒を主権者として自立を促す教育の一環として行っていること）を大切にして、慎重に関わる必要がある。